

象徴天皇制の儀礼構造

—— 関係儀礼に見るソフトパワーの動態^① ——

坂本 孝治郎

はじめに

ソフトパワーとしての皇室、とりわけ天皇の動静をその観察の対象とするとき、宮内庁ホームページに掲載されている、皇室のご活動（ご日程）・「天皇皇后両陛下のご日程」が基本情報として有用である。^②この基本情報を活用して天皇の動静・儀礼を整理し分析するには、まず方向性に着目して、皇居から外に出かける事例、御所・宮殿以外の皇居内等での催しへ出かける事例、宮殿での行事等にお出ましするケース、そして御所での催しや応接等に区分けしてみていく必要がある。次に、皇居内で展開している出来事の焦点構成に着目して、例えば、皇室祭祀・宮中行事、親任式・認証官任命式・勲章親授式および信任状捧呈式、天皇が相對する会見・引見・拝謁・接見・会釈等、天皇への内奏・ご説明・ご進講、そして天皇との会食（晚餐・午餐・夕餐・昼餐）やお茶・懇談等に分節して

照準を合わせ、それらの儀礼的特徴や関係儀礼の構造を読み取ってゆく方法が推奨されよう。

幸いなことに、天皇陛下御在位二〇年に際し、宮内庁では様々の項目について二〇年間の天皇の足跡を件数データや年表のかたちで編纂し、その記録を資料としてホームページで公開している。本稿では、これらの情報を第二基本情報として参照し活用することにした。

この二〇年整理情報によれば、対外的なソフトパワーの儀礼として最も理解しやすいのは「国際親善（外国交際）」の累積事例であるが、国賓を迎えての四八回に及ぶ「宮中晩餐（天皇のおことば）」、そして天皇が皇后と一緒に「来日された外国の元首・夫人などの賓客とお会いになる」「ご会見」が、的確な情報として整理提示されている。

平成期の二〇年間で、天皇単独で八二件（九五五人）、天皇皇后お揃いで二六九件（七七八人）、皇后のみで八件（九人）、すなわち合計で三五九件（八八二人）の「ご会見」が行われている。ここでの「件数・人数には、茶会やお茶、ご昼餐、ご夕餐なども含まれています」、と付記されている。次には、「外国の首相や大使、その夫人などの賓客とお会いになる」「ご引見」の件数が表示され、延べ件数のみ紹介すると、天皇・二七四件（八三三五人）、天皇皇后・七九四件（三〇三三人）、皇后・一件（一人）となっている。概して当該の儀礼行使者が東京駅から儀礼馬車に乗って皇居に向かう、「新任の外国の特命全権大使が信任状を天皇陛下に捧呈する儀式」たる「信任状捧呈式」は、五九七件（五九七人）にのぼっている。そして、「天皇陛下は、日本から外国に赴任する大使夫妻と赴任前に宮殿でお会いになり、引き続き、皇后陛下とご一緒に大使夫妻にお会いになっています」、という「赴任大使・赴任大使夫妻の拝謁」のケースは、天皇・二四〇件（八二六人）、天皇皇后・一三六件（一五三三人）に達している。一年平均で一二件である。こうした赴任大使が日本に帰国した場合、より懇談しやすい御所で「お茶」形式を採用して、天皇皇后は複数の大使夫妻と会って「外国事情」を聴取しているが、「帰朝大使のお茶」は一五三件（一〇

八四人)を数える。最後に、「国際親善のための」天皇皇后の「外国ご訪問」は、一九九一年(平成三)九月下旬から一〇月にかけてのタイ・マレーシア・インドネシア訪問に始まり、二〇〇九年(平成二二)七月のカナダ・米
国訪問に至るまで、一五回に及んでいる。第二回目の外国訪問にあたる中華人民共和国訪問(一九九二・一〇・二
三)一〇・二八)に際しては、天皇の政治的利用や時期尚早論等の理由を盾に保守派から反対があり、その実現に
尽くした宮澤首相は天皇帰国を見届けてひそかに靖国神社に参拝し、ある勢力との黙約を遂行したようである。な
お、皇后が一人で訪問した事例が一つある。国際児童図書評議会、スイス・バーゼル都市州政府の招待で、「国際
児童図書評議会創立五〇周年記念大会」に名誉総裁として出席するため、スイスに旅行している(二〇〇二・九・
二八)一〇・三)。

試みに、その他の二〇年情報をピックアップして列挙してみよう。①憲法の定める国事行為に関わる事項につい
て、概して火曜日と金曜日に行われる閣議での決定を受けて届けられる書類に署名・押印する「内閣上奏書類など」
の総計件数・二二、三七七件。②新年一般参賀の参賀者数(平成二年は昭和天皇崩御にちなむ服喪のため行われず)、
それに天皇誕生日一般参賀の参賀者数(平成元年は服喪中、平成二年は即位礼一般参賀が一一・一八にあり行われ
ず/平成八年はペルーでの日本大使館人質事件にかんがみ、祝賀行事等を中止)。③国会の指名による内閣総理大
臣と内閣の指名による最高裁判所長官を天皇が任命する儀式(親任式)の日程情報、および「任免につき天皇の認
証を必要とする国務大臣その他の官吏の任命式(認証官任命式)」に関する件数情報。④春と秋の叙勲にちなむ大
綬章等勲章親授式(天皇から受章者に勲章が授与され、続いて総理大臣から勲記が伝達される)および一月三日
に行われる文化勲章親授式(伝達式)での受章者数などの情報。ちなみに、文化勲章は平成九年から天皇が親授す
る儀礼様式を採用している。⑤「社会福祉・医療・教育・文化・学術・産業など各分野で功績があった人が主とし

て対象」となる「拝謁」、および「内外の要人をお招きになって、お茶や昼食会などを催されています」、といった「拝謁・お茶など」の各年別件数（人数）データ。⑥春と秋に赤坂御苑で催される園遊会、各年の被招待者数（平成元年は両方なし、平成二年秋は即位大礼で、平成七年春は阪神・淡路大震災で、平成一二年秋は香淳皇后崩御により催さず）。各園遊会には、「衆・参両院の議長・副議長・議員、内閣総理大臣、国務大臣、最高裁判所長官・判事、その他の認証官など立法・行政・司法各機関の要人、都道府県の知事・議会議長、市町村の長・議会議長、各界功績者とそれぞれの配偶者約二、〇〇〇人」が招待され、天皇皇后はか皇族が親しくお話しになるが、ときの（旬な）有名人がスポットライトを浴びることが多い。⑦次には、「ご会釈（勤労奉仕団）」にちなむ団体（人数）の件数情報が掲載されている。天皇皇后は、「皇居内の清掃奉仕のため全国各地から集まる人々」と、概して天皇が執務日にあてている火曜・金曜日（その午前中）にお会いになっている。二〇年間の総計で約五、八〇〇団体、二〇万人を超える一般国民が、清掃奉仕・会釈儀礼に参加している。そのほか、宮中祭祀関連の情報・説明が提示されている。

以上の情報は、概して皇居内（ないし周辺部）で展開されている儀礼、相互行為についての網羅的な集積情報である。次に、皇居から天皇（皇后）がにかけてゆくケースについて、件数等情報を略述紹介しておこう。まず、⑧「国内のお出まし」、すなわち道府県及び東京都内での天皇（皇后）のお出ましにつき、年次別の件数が掲載されている。続いて、⑨天皇皇后は戦後五〇年・六〇年にあたり「戦没者慰霊」の儀礼を丁寧に執り行ったが、その情報を前置きに、毎年八月一日に催される「全国戦没者追悼式へのご臨席（天皇陛下のおことは）」、⑩ソフトパワリーの儀礼行動の真骨頂ともいえる慰問儀礼、すなわち、噴火・大地震・津波等に襲われた地域の人々を慰問・激励する「被災地お見舞い」と「災害復興状況ご視察など」に関する日程等情報。そして、⑪とりわけ、こどもの日・

敬老の日・障害者週間の前後に毎年、両陛下はそれぞれの関連施設を訪問しているが、そうした「福祉施設などのご訪問」の日程・訪問先一覧、^⑫天皇単独での「企業ご視察」一覧が掲載されている。次なる情報として、^⑬三人行幸啓と称される、「全国植樹祭・国民体育大会・全国豊かな海づくり大会へのご臨場」の日程等情報（天皇陛下のおことは）、^⑭皇后お出ましの「全国赤十字大会」・「フーレンス・ナイチンゲール記章授与式」へのご臨席情報（前者の大会での皇后陛下のおことは）、^⑮国会開会式への天皇のご臨席情報（おことは）が続いている。

以下、^⑯日本国際賞授賞式・日本学士院授賞式・日本芸術院授賞式・国際生物学授賞式などへの天皇皇后のご臨席、^⑰「その他の主な式典へのお出まし」情報（例えば、日大創立一〇〇周年・議会開設一〇〇周年・沖繩復帰二〇周年・日本医師会創立五〇周年・日本遺族会創立六〇周年などの記念式典）が列挙紹介されている。ちなみに、以上の二〇年経過情報の件数・年表形式の資料に加えて、^⑱主な式典における天皇陛下のおことは二〇ケースちよっと抽出転載され、即位二〇年に際する両陛下の記者会見と御即位二〇年祝賀行事一覧が当然に組み込まれている。

以上のような公開されている情報・資料を逐一かつ詳細に点検し、それに関連資料を参照して、関係性の分かる表などに合成・編成してみれば、象徴天皇（皇室）のソフトパワーを形成・支持しているネットワーク構造（その動態）が読み取れるであろう。^⑳本稿では、とりわけ天皇と国民（代表）、機関（組織）幹部、功労者等との関係儀礼に着目していく。紙数の関係上、以下、第一章で皇居から出かける代表的事例、第二章で皇居において展開されている諸儀礼をとりあげるが、その一部に照準を合わせクローズアップしてみるとどまる。^㉑

I 行幸・行幸啓・行啓にみるソフトパワーの「象徴網」の構築

天皇単独でのお出ましは「行幸」、天皇后お揃いでの訪問は「行幸啓」、天皇以外の各皇族の催しもの等へのお出かけは「行啓」として、宮内庁用語では表記されているので、ここではその用法を踏襲することにする。

一 「天皇后の三大行幸啓」と「皇太子の八大行啓」

天皇后は毎年数泊しつつ、春の全国植樹祭・秋季国民体育大会・全国豊かな海づくり大会の開会式等への出席と併せて「地方事情」を視察している。行幸啓に浴する三大イベントが各都道府県持ち回り開催の巡回型イベントであることにちなみ、天皇后の航跡・訪問軌跡は、これらの地方行幸啓を介して経時的に全都道府県をカバーしていくことになる。すなわち、三大行幸啓は、これらのイベントに関与しまた訪問を受ける有意な関係者のみでなく会場や沿道の一般の人々が、天皇后を直接に見る機会となり、さまざまな感慨・印象・反応を喚起する。ときに物理的距離の少ない接触・関係儀礼を参与体験して、象徴的権威者との心理的距離の縮小感を享受、あるいは距離のあるオーディエンスとして直接的な臨場や間接的な現場体験を通じて、それなりの充足・疎外・忌避感などを覚えることもある。

換言すると、これらの地方事情視察の組み込まれた行幸啓は、深層象徴的には天皇（皇后）による継起的な「国見」という伝統的意義を有し、あるいは「国民統合の象徴」の安定した正統性を地域的に再確認する共時的意義を帯びる儀礼でもある。とりわけ平成に入って元号が変わり、元帥カリスマとは無縁の象徴カリスマが体現・表出す

るソフトパワーは、イヴェント出席・地方事情視察を介して状況的に伝播し、参与者ネットワークとして感受記憶され応答支持されることになる。昭和天皇による占領期・戦後復興期の「戦後地方巡幸」、高度成長期の「全国植樹祭・国民体育大会巡幸」によって形成され、また残影する記憶層（受容基盤）に、真正の「象徴天皇」による「平成期巡幸」に係る国民的・地域的な行動や感情体験が重ねられ、日本国憲法にも規定された象徴天皇制（皇室）のソフトパワーの威力（象徴力）は持続的に浸潤していく。ときに、副作用・反作用も介在して、それには免疫力もついでくる。

ここに、三大行幸啓もふくむ平成期の天皇行幸全般につきその目的（訪問先）別の件数データ（表1）を参考に掲載する。併せて「昭和」の終焉期と「平成」の始動期に限定した行幸件数の対照表（表2）も参照されたい。⁽⁶⁾もとより、平成に入って、皇居（宮邸）内外での皇室の活動範囲は著しく拡大している。⁽⁷⁾象徴（皇室）カリスマが体現するソフトパワーのフル回転が日常化するとなれば、長期的にはカリスマ性の効用通減ないし体現疲弊を、あるいは亢進させることになるかもしれない。

天皇の象徴カリスマを支え反映する皇太子についても、イヴェント出席・地方事情視察の機会が双方向的に作られ、皇太子が国民と接し相互作用する儀礼として制度化されていく。全国植樹祭との関係では全国育樹祭が一九七七年に始まり、平成に入って「みどりの日」が制定されたのに呼応して全国「みどりの愛護のつどい」が創設される。国民体育大会の冬季大会では、皇太子はか各皇族が出席を引き受ける形になっており、また東京オリンピックを契機に明仁皇太子夫妻の推奨もあり、今日の全国障害者スポーツ大会が秋季国体に連続して当地で開催されるようになり、皇太子夫妻がこの大会に臨席することになっている。以上の四つに加えて、主催省庁・団体からの働きかけもあり、献血運動推進全国大会、全国高等学校総合体育大会、国民文化祭、全国農業青年交換大会などが皇太

表1 明仁天皇の行幸件数一覧(1999~2008年)

暦年 (平成)	1999 H11	2000 H12	2001 H13	2002 H14	2003 H15	2004 H16	2005 H17	2006 H18	2007 H19	2008 H20
A										
①御用邸・御料牧場滞在	5	5	4	6	3	5	6	3	5	5
②皇室関連										
武蔵陵墓地・多摩陵参拝	2	6	2	2	1	1	2	2	1	1
豊島岡墓所		1	1	1	3	1	3	1	2	
東宮御所・宮邸訪問				5		4				
菊米親睦会						1				1
③国会議事堂(開会式・記念式典)	2	5	3	2	2	3	2	2	3	2
A・小計	9	17	10	16	9	15	13	8	11	9
B										
④* 外国訪問*		1		1			2	1	1	
⑤外国元首等来日関連儀礼	9	2	6	2	6	4	4	1	5	4
⑥地方事情視察, 旅行等		1	1		2		1			
⑦三大行幸啓(植樹祭, 国民体育大会, 豊かな海づくり大会)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
⑧伊勢神宮, 畷傍・桃山陵等の参拝	1		1	1						
⑨靖国神社										
⑩千鳥が淵戦没者墓苑										
⑪明治神宮			1	1						
⑫戦没者追悼式, 遺族会・傷痍軍人会等	1	2	1	2	2	1	1	1	2	1
⑬園遊会	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
⑭学士院・芸術院授賞式	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
⑮日本国際賞・国際生物学賞授賞式	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
⑯美術・博物・民族館等およびデパートでの展覧会等	5	5	6	6	6	7	5	4	6	9
⑰博覧会等, 産業施設視察							2			
産業・企業施設等の単独視察	2		1	1	1	1	1	1	1	1
⑱スポーツ・相撲観戦	3	2	3	6	1	3	1	2	2	
⑲社会福祉視察, 同大会, 赤十字・恩師財団関連	3	4	3	7	4	4	3	2	2	2
⑳学習院, 学校創立周年式典		2		1	1					1
㉑災害・被災地状況(復興)視察	2		2		1	1	1	1	2	
㉒その他	19	11	16	12	12	16	17	12	14	20
B・小計(元首来日を除く) (在位10年慶祝関連・1999年) (戦後・終戦60周年関連・2005年)	45 5	37	44	47	39	42	43	33	39	43
総件数	68	56	60	65	54	61	63	42	55	56

服喪

・宮内庁のホームページ掲載の「天皇后両陛下のご日程」を参照して作成

注1 「その他」はコンサートおよび記念式典が多い。

注2 香淳皇后の死去(2000.6.16), 高円宮死去(2002.11.21), 高松宮妃死去(2004.12.18)

注3 天皇, 東大病院で前立腺がんの全摘手術(2003.1.18)

表2 昭和天皇・明仁天皇の行幸件数一覧（1985～1994年）

暦年 (昭和→平成)	1985 S60	1986 S61	1987 S62	1988 S63	1989 H1	1990 H2	1991 H3	1992 H4	1993 H5	1994 H6
A										
①御用邸・御料牧場滞在等	5	5	4	4	1	1	3	4	2	5
②東宮御所・宮邸訪問 皇室行事・多摩陵参拝 (武蔵陵墓地)	1	3	4					4	1	
③国会議事堂（開会式・記念式典）	2	3	2		2 3	3 4	2 3	2 3	2 3	4 3
A・小計	8	11	10	4	6	8	8	13	8	12
B										
④*外国訪問*							1	1	2	2
⑤外国元首等来日関連儀礼	2	10	1		4	6	6	8	10	5
⑥地方事情視察、旅行等								2	1	2
⑦全国植樹祭・国民体育大会 (豊かな海づくり大会) (全国身障者スポーツ大会)	2	2	1		2 1 1	2 1 1	2 1 1	2 1 1	2 1 1	2 1 1
⑧伊勢神宮、叡傍・桃山陵等の 参拝						2				1
⑨靖国神社										
⑩千鳥が淵戦没者墓苑										
⑪明治神宮						1		1		1
⑫戦没者追悼式、遺族会大会、 傷痍軍人会等	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1
⑬園遊会	2	2	1			2	2	2	2	2
⑭学士院・芸術院授賞式 (日本国際賞授賞式) (国際生物学賞授賞式)	2	2	2		2	2	2	2	2	2
⑮美術・博物・民芸館等					1	1	1	1	1	1
⑯デパートでの展覧会等					1	1	1	1	1	1
⑰産業・工芸展、博覧会、貿易展、 見本市等	2					1				
⑱スポーツ・相撲観戦	3	3	1			1	2	1	1	2
⑲社会福祉視察、同大会、赤十字・ 恩師財団関連					2	1	2	3	2	3
⑳学習院、創立周年式典					1	2	1	2		
㉑災害・被災地状況（復興）視察			1				1		1	
㉒その他	5	1	3	1	8	11	16	15	12	8
B・小計（元首来日を除く）	17	11	10	2	20	32	34	44	36	33
総件数	27	32	21	6	29	46	48	65	54	50

注1：昭和天皇，入院（1987.9.22）

注2：昭和天皇，容体が急変（1988.9.19）

子出席（地方視察）イヴェントとして制度化されている。近年、最後尾の催しに替えて全国農業担い手サミットに出席し、青年農業者と交流、併せて地方事情を視察している。

もとより、皇太子を迎える主催者・地域にとっては、皇太子出席イヴェントという格付けが不可欠な意義を有するのであるが、一般の国民・地域住民にとっては、地方行啓は何よりも「皇太子ご夫妻」を目にできる稀少な機会であり、とりわけ皇太子妃の象徴的価値は大きい。すなわち、生まれながらに天皇位を継承する運命にある皇太子がどのような女性をお妃・伴侶として迎えるか、その結婚のあり方こそが国民の関心の焦点を構成する。国民・一般大衆が美智子妃、雅子妃、紀子妃に「お妃カリスマ性」をときに感得し享受し躍動したように、とりわけ、皇族（関係）以外の出身女性との皇太子の結婚は、君主制と民主制との象徴的契約といった性格を帯び、心からの拍手喝采や好意的歓迎は象徴天皇制の新たな承認という儀礼的意義を伴っている。それゆえに、昭和期の皇太子夫妻の活発な動静と異なり、平成期において「皇太子ご夫妻お揃いで」といった様式でのお出ましが事実として少ないことは、あるいは皇太子妃の象徴的効用の減退として憂慮され、雅子妃の長期にわたる現象的隔在・不在は、皇入りへの伝統的敷居の緩和戦略に支障をきたすことになり、また国民の間にアンビバレントな反応を亢進させかねない。ときに、弟宮とその妃殿下、内親王・親王に照明が当てられる所以である。徳仁皇太子の行啓全般の概要については、その件数データ一覧（表3）を参照していただきたい。

ちなみに、秋篠宮はどのような催しに定期的に出席しているか、簡単に紹介してみよう。概して泊りがけの行啓となる巡回型催しへの出席の機会は、皇太子同様八つほどある。すなわち、春の全国都市緑化祭、夏季国民体育大会・秋季国体（閉会式）・冬季国体スキー大会、夏の全日本高等学校馬術競技大会、海の祭典、全国生涯学習フェスティバル、全日本愛瓢会大会などに出かけている。また、固定型の行事として、五月開催の森と花の祭典（みど

表3 徳仁皇太子の行啓等の件数一覧（2002～2008年）

暦年 (平成)	2002 H 14	2003 H 15	2004 H 16	2005 H 17	2006 H 18	2007 H 19	2008 H 20
A							
①御内邸・御料牧場滞在，スキー等静養滞在	6	4	4	5	2	4	3
②宮中三殿等での儀礼・拝礼	17	17	19	16	19	19	21
武陵陵墓地・多摩陵参拝	1	2	2		2	1	2
豊島岡墓地	2	3	3	4		1	
宮邸訪問	5	3	6	4		1	
③御所（挨拶，勅書伝達，報告）	3	3	5	2	7	3	8
（祝賀・家族行事）		1	1	1			1
（ご進講・説明などの陪席）	1	6	4	6	2	6	5
④宮殿（宮中・祝賀・皇族行事）	7	10	10	9	10	8	9
（国賓・公賓等の歓迎，晩餐・午餐ほか）	8	9	4	8	5	11	7
（茶会，政府高官との午餐）	5	6	5	7	7	2	8
（国事行為臨時代行・執務）	6	11	5	5	3	5	
⑤天皇に代わり接見，ご名代で式典出席		5		1			
⑥桃華楽堂・三の丸尚蔵館ほか	1	1	3	4		2	1
A・小計	62	79	66	72	57	63	65
B							
⑦* 皇太子自身の外国訪問*	2		2	1	3	1	3
天皇の外国訪問の送迎（羽田空港）	2			4	2	2	
⑧元首・王族等来日関連（皇居外）	5	5	2	2	2	1	2
⑨八大行啓（国体冬季，みどりの愛護，献血推進大会，高校総体，農業青年交換大会，育樹祭，国民文化祭，障害者スポーツ）	8	8	8	8	8	8	7
⑩伊勢神宮，畷傍・桃山陵等の参拝		1				1	1
⑪千鳥が淵戦没者墓苑							
⑫明治神宮	1		1				
⑬園遊会	2	2	2	2	2	2	2
⑭演奏会鑑賞（出演），観劇，映画 *注4	5	7	6	7	8	8	8
⑮美術・博物・民芸館・デパート等での展覧会等	4	2	2	9	4	4	6
⑯産業施設等の視察	1	1	3	1	3	1	1
⑰博覧会等視察	1	1	1	4			
⑱スポーツ・相撲観戦	4	1	1	1	3	2	1
⑲学習院，学校創立周年式典	2	3	1	3	7	3	6
⑳「水の週間」・その他水問題関連	1	3	1	0	2	1	6
㉑登山，日本山岳会関連行事	1	1	4	3	2	1	3
「日本賞」教育番組国際コンクール授賞式	1	1	1	1	1	1	1
国際青年交流会議レセプション	1	1	1	1	1	0	1
㉒災害・被災地関連の儀礼，視察	1						
㉓その他	12	17	18	14	13	16	15
B・小計	54	54	53	61	61	52	63
総件数	116	133	119	133	118	115	128

*宮内庁ホームページの「皇太子同妃両殿下のご日程」，および『皇室』（扶桑社，季刊）を参照して作成

注1 2005年以降は，宮内庁ホームページでは宮中祭祀の記載あり

注2 香淳皇后の死去（2000. 6. 16），高円宮死去（2002. 11. 21），高松宮妃死去（2004. 12. 18）

注3 天皇，東大病院で前立腺がんの全摘手術（2003. 1. 18）

注4 チャリティー・コンサートも含まれる

注5 皇太子，十二指腸のポリープ摘出手術で東大病院に入院（2007. 6. 5～12）

りの感謝祭)、福岡アジア文化賞授賞式、日欄協会年次総会、日本水大賞表彰式その他に紀子妃を伴って出席している。弟宮として、年間の行啓件数は非常に多く、皇太子と比べて行動の自由度は高い。秋篠宮単独では、山階鳥類研究所、生き物文化誌学会、日本動物園水族館協会などの関連会議や研究会に頻繁に出かけている(表4参照)。

以上、天皇・皇太子・秋篠宮の主要な行幸・行啓に着目してみると、それらがどのように組み合わせられ、連携的・総合的にどういったネットワークを張り巡らしているか、あるいは担ぎ支えられているか、その鳥瞰図の簡略版を垣間見ることができよう。

翻ってみるに、天皇と皇族の時間的・空間的な参集度が最も高い地域イベントは秋季国民体育大会(全国障害者スポーツ大会も含む重畳的イベント)である。全国植樹祭および全国豊かな海づくり大会が短期・空間限定的な行幸啓の機会であるのと対照的に、とりわけ秋季国体は、長期にわたり県内全域ないし広域的に開催され、直接・間接的な関与者また参加者の数が多く、天皇皇后に加えて他の皇族方も競技見学・式典臨席等で姿を見せる、稀有のイベントである。以下、二〇一一年の事例に照準を合わせて点検してみよう。

① 第六六回秋季山口国体にあつては、総合開会式(一〇・一、土曜)には天皇皇后(閉会式、一〇・一〇・秋篠宮夫妻)が、続く第一回全国障害者スポーツ大会の開会式(一〇・二二、土曜)には皇太子(閉会式、一〇・二四・高円宮妃)が、それぞれ臨席しては競技を観戦し、併せて地方事情を視察している。

② 天皇皇后は行幸日程(九・三〇～一〇・二)のなか弓道・軟式野球の二競技を、そして、高円宮妃(一〇・三～五)は次女を伴い馬術・サッカー・ボウリング・ソフトテニス・自転車競技を、常陸宮夫妻(一〇・六～八)はフェンシングとホッケーをそれぞれ観戦し、また、三笠宮寛仁殿下の長女・次女(一〇・八～九)は卓球・空手競技とバレーボール・なぎなた・ウエイトリフティング競技を別々に観戦、最後に、秋篠宮夫妻(一

表4 秋篠宮文仁親王の主要な行啓、会議出席一覧

固定型	巡回開催型	研究会、学会・会議など
2月 全国中学生・高校生 作文コンクール 全国学校ビオトープ コンクール 関東東海花の展覧会	2月 国体冬季スキー大会	生き物文化誌学会 淡水魚保全研究会
3月 日本学術振興会賞・日 本学士院学術奨励賞授 賞式・パーティ	4月 全国都市緑化祭	日本動物園水族館協会・関連 (水族館・動物園技術者研究 会) 山階鳥類研究所関連会議、集 い
5月 森と花の祭典(「みど りの感謝祭」)	5月 ジャパンフラワーフェ スティバル	HCMR(家禽類調査研究) 人間生命科学プロジェクト BIOSTORY 編集会議
6月 日蘭協会年次総会	6月 全日本愛瓢会・大会	
6月 日本水大賞表彰式	6月 国際園芸博覧会 7月 海の祭典 関連 7月 全日本高等学校馬術 競技大会	
9月 福岡アジア文化賞 授賞式	9月 国体夏季大会	(参考情報) 東京大学総合研究博物館 特招研究員 東京農業大学・同大学短期 大学部 客員教授 総合研究大学院大学学融合 推進センター 客員研究員
9月 テニス観戦(ジャパ ンオープン)	10月 国体秋季大会(閉会式) 10月 全国生涯学習フェス ティバル	
11月 テニス観戦(全日本 テニス選手権)		
11月 農林水産祭「実りの フェスティバル」		
12月 日本学生科学賞・中央 表彰式		

* 宮内庁ホームページの「文仁親王同妃両殿下のご日程」を参照。

開催月は概要にとどまる。

* 秋篠宮は日本テニス協会の名誉総裁、高階鳥類研究所・日本動物園水族館協会の総裁を
している。

〇・一〇（一一）がソフトボール・陸上競技・ハンドボールの三競技をご覧になっている。

③ 第一一回全国障害者スポーツ大会に際する行啓日程は、皇太子（一〇・二二（二三）、高円宮妃（一〇・二二（二四））となっている。

以上の展開を見ると、天皇后を先導者として各皇族が式典主席を役割分担し、概して総出で、日程の途切れることなく、かつ重なりを避けて、各種の競技を見て廻っていることが分る。換言すると、イヴェントの開催期間中、見事に経時的かつ分散的に、山口県内に皇室のプレゼンスが確保されている。国民体育大会と障害者スポーツ大会といった重畳的イヴェントは、それらを準備・運営し或いは協力参加する当事者はもとより、状況的なオーディエンス（ないし距離を置く離在者）にとっても、皇室関係者との相互作用・関係儀礼を体験（見聞）する、またとない機会になっている。巡回型の国民体育大会は、マレビトや競技関係者を迎える側での美しい景観づくりや普請直しの機能も含め、実質的には地方沸騰型の「県民イヴェント」に他ならず、そして皇室ソフトパワーの欠かせぬ表現舞台であり、象徴的中心を鑑賞受容する邂逅契機を構成している。スポットライトに浴する興奮・感激が稀少であればあるほど、その充足的価値は高いことになる。⁸⁾

すでに「はじめに」で言及また「表1」で整理区分してみたように、天皇（皇后）の行幸（啓）は各種式典臨席、福祉施設等訪問、美術展・コンサート鑑賞、産業視察ほか多岐にわたっている。もとより、各宮殿下・妃殿下による式典や大会等への行啓の場合、協会や団体などの総裁ないし名誉総裁を引き受けることにちなむ「お出まし」も有意に存在する。それらは、皇室ソフトパワーを推戴支持する重要なネットワークを構成している。⁹⁾ 本稿では、分析対象を更に絞らざるを得ないので、以下、むしろ儀礼性の高い戦没者慰霊と被災地お見舞いのケース、すなわち、皇室ソフトパワーの根源的源泉の一つ（祈り・慰問）に照準を据えることにする。

二 戦没者・原爆犠牲者等の慰霊儀礼にみる象徴天皇・皇族の連携関係

今上天皇は、皇太子時の一九八一年夏の会見で、「忘れてはならない四つの記憶すべき日」として、六月二三日（沖繩慰霊の日）・八月六日（広島原爆の日）・八月九日（長崎原爆の日）・八月十五日（終戦記念日）をあげ、そうした日は一家で戦没者・原爆犠牲者に思いをいたし、慰霊・追悼に専心するといった趣旨のことを語った。象徴皇太子として、象徴天皇制の歴史的因縁がどこに淵源するかを深く自覚し、大日本帝国憲法下のハードな神話的・政治的カリスマではなく、戦後の日本国憲法が規定する「国民統合の象徴」に期待された、ソフトな親和的・非政治的カリスマに賭ける信念を表明したことになる。換言すると、ソフトパワーとしての象徴天皇制（皇室）の社会的・文化的価値を前景に押し出し、その期待された任を担う決意を披露した次第である。

ちなみに、明仁皇太子は、一九六〇年の安保改定に伴う政治的混乱が終息した後、八月六日に広島市「原爆死没者慰霊式・平和記念式」に出席しスピーチをしている。平和儀礼のイニシエーションを施されたその秋には、若き皇太子は前年四月に結婚した美智子妃と一緒に、日米修好一〇〇年記念の「米国訪問の旅」に送り出されている。実は、八月六日の慰霊式には高松宮夫妻（一九五四、五八年）と三笠宮夫妻（一九五七年）が先行して出席している。一九六〇年以降については、皇族の出席例はないようである。

昭和天皇の崩御（一九八九年一月七日）をうけ、文字通り象徴天皇の座に就いた明仁天皇は、満を持していたように、一九九五年・戦後（終戦）五〇年に際し慰霊儀礼を積極的に展開して⁽¹⁰⁾みせた。すなわち、前年の二月には東京都小笠原諸島を視察（二・一二―一四）、激戦が展開され多大な戦死者を出した硫黄島に皇后と赴き、天山慰霊碑と鎮魂の丘にて戦没者を悼み厳肅に拝礼した。そして、戦後五〇年の全国戦没者追悼式（八・一五）へのご臨席

に先立ち、まず長崎県・広島県行幸啓（七・二六～二七）を敢行した。長崎市平和公園で供花、原爆資料センターを視察、恵みの丘長崎原爆ホームに立ち寄り、そして広島平和都市記念碑（原爆死没者慰霊碑）に供花、広島原爆養護ホーム倉掛のぞみ園を視察し、丁寧に慰霊儀礼を重ねた。続いて、天皇は一週間後の八月二日（水）に皇后と沖繩に日帰りで出かけ、糸満市の沖繩平和祈念堂で「戦災五〇年の概況」を聴取、国立沖繩戦没者墓苑で供花、平和の礎を視察した。そして、翌八月三日には東京都慰霊堂に足を運び、東京大空襲（一九四五・三・一〇未明）による膨大な犠牲者の霊を弔った。以上、暑い夏場での両陛下による真摯な慰霊儀礼の実践は、昭和期天皇制の象徴的負債を国内的に決済する意味合いを有し、また明仁天皇夫妻が体現するソフトパワーの象徴的威力を例証する機能を果たしたようである。¹¹⁾

当時の自社連立政権（社会党出身首相・村山富市内閣）にあつて、自民党内消極派等の抵抗で国会における戦後五〇年決議は低調な結果に終わったが、それに替えて格調ある村山首相談話が閣議決定を介して発信されたことよつて、ともあれ国際的な儀礼体面は取り繕われることになった。その後、紆余曲折の末、歳末の一二月一八日まで遅延（当初は八・一五狙い）、天皇皇后の臨席するなか、時機・意義を失して「戦後五〇年の集い」が国立劇場で開催され、戦後五〇年の儀礼は幕を閉じた。なお、この年、千鳥ヶ淵戦没者墓苑での拝礼式（五・二〇）には皇太子夫妻が出席している。

戦後六〇年（二〇〇五年）のケースを見てみると、まず秋篠宮夫妻が東京都慰霊堂での春季慰霊大法要（三・一〇）に臨席している。そして、国外での慰霊も行いたいという天皇の強い希望を受けて、「戦後六〇年に当たり、戦争により亡くなられた人々を慰霊し、平和を祈念するため」、米国自治領北マリアナ諸島・サイパン島の慰霊訪問（六・二七～二七）が演出され、天皇皇后の誠実な祈りの映像が世界に向けて発信された。そのあと、天皇皇后

は、戦没殉職船員遺族の集い（七・四、海運クラブ）と全国戦没者追悼式（八・一五）に臨席、そして葉山御用邸での静養の帰途に横須賀市の観音崎公園に立ち寄り戦没船員の碑に供花（一〇・一一）、年末には日本遺族会婦人部「新たなる出発の集い」（一一・一三、九段会館）に臨席した。

ちなみに、「終戦六〇周年」にちなむ皇族の行啓事例をいくつか摘出しておこう。①三笠宮崇仁殿下は靖国神社での「終戦六〇周年記念戦没者合同慰霊祭」に参列（八・一〇）、②常陸宮夫妻は東京都慰霊堂での「関東大震災並びに都内戦災遭難者の秋季慰霊大法要」に臨席（九・一）、③高円宮妃は千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式に臨席（五・三〇）。

本稿では、皇族の慰霊儀礼としてあまり着目されてこなかった、東京都慰霊堂での関東大震災・東京大空襲関連の「春季慰霊大法要」と千鳥ヶ淵戦没者墓苑での「納骨並びに拝礼式」に照準をあわせ、皇族の儀礼的な役割分担の一端を紹介しておきたい。「表5」は三月一〇日の春季大法要と五月（一九七三年以降）の拝礼式にどの皇族が臨席したか、一覧にまとめたものである。

高松宮殿下は、昭和天皇の弟宮として体調のすぐれない秩父宮殿下に代わって、占領の終焉（再独立）にあわせて一九五二年から東京都慰霊堂での慰霊大法要に臨席し、当人の体調が許す限りで一九八六年まで連続して慰霊儀礼に精出している。先の戦争に間接的にもコミットした責任感のなせる所以か、高松宮が成人皇族を代表して天皇の儀礼的補佐役を務めており、なるほど、広島市平和儀礼への参列に高松宮がいち早く一九五四年に先鞭をつけたことと符合している。高松宮亡き後は、昭和の終焉まで高円宮がこの慰霊法要儀礼を引き継ぎ、平成に入って三笠宮家、常陸宮家、秋篠宮家も加わり、四宮家で適宜交代・分担して慰霊儀礼を重ねている。

他方、千鳥ヶ淵（無名）戦没者墓苑の場合、その竣工・追悼式（一九五九・三・二八）には裕仁天皇が皇后と一

千鳥ヶ淵戦没者墓苑・拝礼式 (○)：臨席皇族一覧

裕仁天皇	明仁皇太子		備考
1959. 3. 28○*			▼秩父宮1953. 1. 04 戦後10周年 千鳥ヶ淵 竣工式
1965. 3. 28○*			戦後(終戦)20周年
1970. 4. 25○*			戦後(終戦)30周年
	1980. 5. 19○*		戦後(終戦)35周年 戦後(終戦)40周年
			▼高松宮1987. 2. 03 5. 23 拝礼式
明仁天皇	徳仁皇太子	秋篠宮	備考
	1995. 5. 20○*	1993. 5. 31○* ◎*	5. 29 拝礼式 戦後(終戦)50周年 ▼秩父宮妃1995. 8. 25

表5 東京都慰霊堂・春季慰霊大法要(◎)と

秩父宮妃殿下	高松宮	三笠宮崇仁親王	常陸宮	西暦(元号)
	◎			1952(昭27)
	◎			1953
	◎			1954
	◎			1955
	◎			1956
	◎			1957
	◎			1958
	◎			1959
	◎			1960(昭35)
	◎			1961
	◎			1962
	◎			1963
	◎	3.28○		1964
	◎			1965
4.20○	◎	3.28○		1966
4.18○	◎			1967
	◎			1968
	◎	4.19○		1969
	◎			1970(昭45)
	◎			1971
	◎	4.22○	4.24○*	1972
5.12○	◎			1973
	◎			1974
5.31○	◎		5.11○*	1975
	◎			1976
	◎		5.15○*	1977
	◎		5.14○*	1978
5.26○	◎	5.25○*		1979
	◎			1980(昭55)
	◎	5.25○*		1981
	◎			1982
5.28○	◎	5.30○*	5.31○*	1983
	◎			1984
5.26○	◎			1985(昭60)
▽高円宮	◎		5.27○*	1986
◎				
◎・○*			5.25○	1987
				1988
高円宮	三笠宮寛仁親王	三笠宮崇仁親王	常陸宮	改元▼天皇 1.07
		◎・○*		1989(平1年)
◎	5.28○*	◎☆		1990
		◎	5.27○	1991
			5.25○*	1992
			◎	1993
				1994
				1995(平7)

明仁天皇	徳仁皇太子	秋篠宮	備考
		1998. 5. 25○*	
		2001 ◎* 5. 27○*	▼香淳皇后2000. 6. 16 ▼高円宮2002. 11. 21
		2005 ◎* 5. 29○*	▼高松宮妃2004. 12. 18 戦後(終戦)60周年
		2011. 5. 30○*	

活用)

緒に臨席し、そして、両陛下は「終戦二〇周年・二五周年」という節目の年に焦点を合わせて納骨・拝礼式にお出ましになっている。一九六四年から皇族の出席が制度化し、昭和期は三笠宮、秩父宮妃、常陸宮の三宮家でその任を分担している。一九八〇年(戦後三五年)には明仁皇太子夫妻がデビューしているが、ここで焦点を当てている両儀礼は、天皇・皇太子以外の皇族が役割分担する儀礼慣行ができあがっている。徳仁皇太子夫妻が節目の年(一九九五年、戦後五〇年)にのみ臨席する所以である。¹³⁾平成期に入ると、慰霊大法要の儀礼と同様に、高円宮、秋篠宮も加わり、四宮家(三笠宮寛仁親王も含め)で分担する形になっている。もっとも、高円宮は、法要儀礼の例とパラレルに昭和の末期から参画している。

もとより、戦没者遺骨の収集作業の管轄は厚生省・厚生労働省である。この納骨・拝礼式には、時の総理大臣・厚生(労働)大臣、外務・防衛の大臣・長官(ないし各副大臣等)、社会労働委員会・厚生労働委員会の委員長、日本遺族会会長、墓苑奉仕会会長、それに近年は関係国の駐日

高円宮	三笠宮寛仁親王	三笠宮崇仁親王	常陸宮	改元▼天皇 1.07
◎	5.27○*			1996
◎*			5.29○*	1997
5.31○*	◎*			1998
◎*	5.29○		◎*	1999
▽			5.28○*	2000 (平12)
高円宮妃	5.26○*	◎		2001
	◎*	5.31○*	◎*	2002
5.30○		◎		2003
◎			5.28○*	2004
5.28○		5.25○*	◎*	2005 (平17)
	◎		◎*	2006
	5.31○		◎*	2007
			◎*	2008
			◎*	2009
				2010 (平22)
				2011

- ① 夫妻揃っての参列ケースは*を、妃殿下のみの場合は☆を追加した/▽は以下(粹を)
 ② ▼は天皇・宮殿下の亡くなったケース(崩御・薨去)
 (注) 春季慰霊大法要は3月10日に毎年、営まれている。
 戦没者墓苑での秋季慰霊祭祭臨席の情報
 2011年10.18 高円宮妃・典子女王(次女)

大使が六人ほど出席している。都知事も参列したことがある。一九九五年(戦後五〇年)の際には、最高裁長官も出席している。

三 「大震災被災地お見舞い」にみる皇室の慰問儀礼

平成期に限定した場合、天皇による「被災地お見舞い」のケースは六例ある。①平成三年の雲仙・普賢岳噴火に伴う(一九九一・七・一〇)、②平成五年の北海道南西沖地震に伴う(一九九三・七・二七)、③平成七年の阪神・淡路大震災(一九九五・一・三一)、④平成一六年の新潟県中越地震災害(二〇〇四・一・一六)、⑤平成一九年の新潟県中越沖地震災害(二〇〇七・八・八)、そして、⑥もっとも大規模な複合的被害を惹起した、平成二三年の東日本大震災・大津波被害にちなむ一連のお見舞い。

ここでは、一九九五年一月一七日(火)に発生した「阪神・淡路大地震」と二〇一一年三月一日(金)に襲来した「東日本大地震・大津波」にちなむ、お見舞いと視察を中心に扱うことにする。もっとも、阪神・淡路大地震関連

の「復興状況ご視察」の事例（平成二〇年まで）については、六年後の視察（二〇〇一・四・二三～四・二六）と「阪神・淡路大震災二〇周年のつどい、国連防災世界会議開会式ご臨席」（二〇〇五・一・一六～一・一八）に伴うその二つがあるが、それらの事例紹介は省略する。

阪神・淡路大震災（死者・行方不明者六四三六八）に伴う天皇対応の詳細、すなわち、「皇居・宮殿ないし御所での震災関連職務関係者や各種専門家などからの説明・報告の聴取」、および「天皇皇后の被災地お見舞い」については、戦後五〇年関連の動静と併せた天皇動静年表（表6）を参照のこと。この表により時系列での展開を辿れば一目瞭然であるが、二〇一一年のケース（死者・行方不明者二万人）とは対照的に、大きな震災被害が地域限定的であり、津波・原発事故を伴ったものでもなかったため、天皇は発生から二週間後に被災地を訪問したのみで（日帰りの兵庫県行幸啓）、もっぱら皇居において救護活動・被災状況等について説明・報告を聴取している。しかし、この被災地訪問に際し、天皇皇后は、避難所の体育館に赴むいて、「床に膝をつき・手を握って励ます」といった慰問・激励のスタイルを打ち出した。この親和的・共感的な関係様式は、昭和天皇のそれとは異なる「平成流」の儀礼実践として、むしろポジティブな評価・反応を国民の間に喚起した。明仁天皇と美智子皇后によって着手されたスタイルは、平成流の皇室スタイル（専売特許）として、その後の災害被災地訪問でも反復され、他の皇族にも模倣され踏襲されていく。

この一九九五年が戦後五〇周年に相当していた偶然もあり、むしろ行幸啓としてはその後の「慰霊の旅」の方が、顕示的な軌跡を描いて展開されている。当然に、二〇一一年の大震災に際しては、一九九五年大震災での諸対応が前例として参照されたであろう。本稿では、以下、東日本大震災・大津波と福島第一原発事故にちなむ説明・報告聴取や特殊節電対策等、および皇室総出の慰問儀礼に照準を合わせ、その特徴的軌跡を記録・説明してみよう。

表 6 1995 年・天皇の動静（阪神・淡路大震災、戦後 50 年関連）

1. 17 (火) 阪神・淡路大地震が発生◇
1. 19 (木) ○▽内奏（阪神・淡路大震災非常災害対策本部長：国土庁長官）
1. 20 (金) ○ 第132回国会開会式ご臨席（国会議事堂）
1. 23 (月) ◎*ご報告（日本赤十字社社長：大震災に対する日赤の救護活動等対応状況）
1. 24 (火) ◎*ご説明（地震予知連絡会会長：阪神・淡路大震災について）
1. 25 (水) ○▽ご説明（警察庁長官：大震災被災地の救助，救護等の状況について）
1. 28 (土) ◎*ご説明（消防庁長官：大震災被災との消火，救助，救急活動等について）
1. 29 (日) ☆*ご説明（日本看護協会会長：大震災被災地の看護の状況等について）
1. 31 (火) ◎ 兵庫県行幸啓（阪神・淡路大震災被災地のお見舞い）2週間後!!
皇居御発（ご移動は，自衛隊機，同ヘリコプター，県バス）
兵庫県被害概要及び西宮市被害概要ご聴取（兵庫県知事，西宮市長）・お見舞（西宮市立中央体育館）
芦屋市被害概要ご聴取（芦屋市長）・お見舞（芦屋市立精道小学校）
兵庫県復旧状況ご聴取（兵庫県知事）（芦屋保健所：芦屋市）
神戸市被害概要ご聴取（神戸市長）・お見舞（神戸市立本山第二小学校）
被害地ご視察（神戸市 長田区菅原市場）
北淡町被害概要ご聴取（北淡町長）（北淡町役場），お見舞（北淡町民センター）
2. 02 (木) ◎*ご報告（日本赤十字社社長・同総務局長：大震災の日赤活動状況について）
2. 06 (月) ☆*ご報告（日本看護協会会長：大震災被災地の看護状況について）
2. 09 (木) ○▽内奏（国務大臣：阪神・淡路大震災対策担当）
2. 10 (金) ○▽ご説明（防衛事務次官，統合幕僚会議議長：大震災被災地の救助，救援等の状況について）
2. 16 (木) ◎*ご説明（兵庫県知事：阪神・淡路大震災現況について）約1ヵ月後
2. 20 (月) ◎*ご説明（土木学会会長：大震災による公共土木施設の被災状況等について）
◎*ご説明（日本建築学会副会長：大震災による建築物の被災状況等について）
2. 22 (水) ◎▽宮中晩餐（アイルランド大統領及び同夫君 [国賓]）
2. 23 (木) ◎*ご挨拶（皇太子殿下（お誕生日につき）
3. 01 (水) ◎*ご説明（大阪府知事：大震災による被災状況について）
3. 02 (木) ◎*ご説明（日本育英会会長：大震災関係の対応について）
3. 09 (木) ◎ 多摩陵・多摩東陵・武蔵野陵ご参拝（武蔵野墓地）
◎*ご説明（阪神・淡路復興委員会委員長：阪神・淡路地域の復興について）
3. 14 (火) ◎▽宮中晩餐（エジプト大統領夫妻 [国賓]）
3. 15 (水) ○▽内奏（建設大臣）
3. 17 (金) ◎*ご説明（外務事務次官：大震災に対する外国からの支援等について）
3. 28 (火) ◎*ご説明（厚生省社会・援護局長：大震災における被災障害者の状況について）
3. 29 (水) ○ ご出席（1995年度日本魚類学会年会，懇親会）（東京水産大学）
3. 30 (木) ☆ 音楽大学卒業生演奏会ご臨席（桃華楽堂）
4. 12 (水) ○ 内奏（国務大臣：阪神・淡路大震災対策担当）
4. 18 (火) ◎*▽紀宮殿下お誕生日祝賀行事（御所・宮殿）

4. 21 (金) ○▽内奏 (内閣総理大臣)
4. 24 (月) ◎* ご報告 (兵庫県知事: 大震災後の復旧と復興状況について)
4. 27 (木) ◎* ご報告 (長崎県知事: 雲仙普賢岳噴火災害その後の状況について)
5. 2 (火)~5. 6 (土) ◎ 葉山御用邸ご滞在
5. 08 (月) ○▽勲章親授式・拝謁 (勲一等以上の勲章受賞者)
5. 20 (土)~5. 22 (月) ◎ 広島県行幸啓 (第46回全国植樹祭に御臨席併せて地方事情御視察)
5. 20 ◎ ご供花 (原爆死没者慰霊碑) (広島平和都市記念碑)
- ◎ ご視察 (広島平和記念資料館)
- ◎ ご視察 (広島原爆養護ホーム舟入むつみ園) (広島市)
5. 21 ◎ 第46回全国植樹祭式典ご臨席 (広島県立中央森林公園) (本郷町)
5. 22 ◎ ご視察 (広島県立歴史博物館) (福山市)
- ◎ ご視察 (広島県立東部工業技術センター) (福山市)
6. 16 (金) ◎※皇后陛下ご還暦御祝いの御晩餐
7. 04 (火) ◎▽宮中晩餐 (南アフリカ共和国大統領 [国賓])
7. 05 (水) ○▽内奏 (内閣総理大臣)
7. 06 (木) ○▽内奏 (内閣総理大臣)
7. 7 (金)~7. 14 (金) ◎ 須崎御用邸ご滞在
7. 26 (水)~7. 27 (木) ◎ 長崎県・広島県行幸啓 (戦後50年に当たり)
7. 26 ◎ 「戦災50年の概況」ご聴取 (長崎県知事) (ホテルニュー長崎)
- ◎ ご供花 (平和公園) (長崎市)
- ◎ ご視察 (原爆資料センター) (長崎国際文化会館)
- ◎ ご視察 (恵の丘長崎原爆ホーム) (長崎市)
7. 27 ◎ 「戦災50年の概況」ご聴取 (広島県知事) (リーガロイヤルホテル広島)
- ◎ ご供花 (広島平和都市記念碑 (原爆死没者慰霊碑)) (平和記念公園)
- ◎ ご視察 (広島原爆養護ホーム倉掛のぞみ園) (広島市)
8. 01 (火) ○▽内奏 (自治大臣)
8. 02 (水) ◎ 沖縄県行幸啓 (戦後50年に当たり)
- ◎ 「戦災50年の概況」ご聴取 (沖縄平和祈念堂) (糸満市)
- ◎ ご供花 (国立沖縄戦没者墓苑) (糸満市)
- ◎ ご視察 (平和の礎) (糸満市)
8. 03 (木) ◎ 戦後50年に当たり行幸啓 (東京都慰霊堂)
8. 04 (金) ○ 第133回国会開会式ご臨席 (国会議事堂)
8. 09 (水) ◎* ご報告 (兵庫県知事: 阪神・淡路大震災後の復旧と復興状況について)
8. 10 (木) ○ ご懇談 (宮内記者会員)
8. 11 (金) ◎* ご夕食 (前ドイツ大統領夫妻)
8. 15 (火) ◎ 全国戦没者追悼式ご臨席 (日本武道館)
8. 25 (金) ◎ ご弔問 (雍仁親王妃勢津子殿下薨去につき) (宮内庁病院)
8. 26 ◎ 行幸啓 (御舟入当日ご拝礼) (秩父宮邸)
8. 29 ◎ 行幸啓 (正寝移柩当日ご拝礼) (秩父宮邸)
8. 30 ◎ 行幸啓 (靈代安置当日ご拝礼) (秩父宮邸)
9. 01 ◎ 行幸啓 (斂葬後一日墓所祭当日ご拝礼) (豊島岡墓地)

8. 31 (木) ◎*ご夕餐(ベルギー王妃陛下)
9. 01 (金) ◎*ご夕餐(ベルギー王妃陛下)(御所)
9. 06 (水) ☆▽皇族たる皇室会議の議員及びその予備議員の互選の投票
9. 14 (木) ◎ ご供花(戦没船員の碑)(神奈川県立観音崎公園)
◎ ご視察(東京湾海上交通センター)
9. 14 (木)~9. 19 (火) ◎ 葉山御用邸ご滞在
9. 29 (金) ○ 第134回国会開会式ご臨席(国会議事堂)
10. 06 (金) ◎ ご臨席(国民参政105周年・普選70周年・婦人参政50周年記念式典)(日比谷公会堂)
◎*ご昼餐(デンマーク王妹殿下)/◎*ご夕餐(タイ国チュラポーン王女殿下)
10. 11 (水)~10. 15 (日) ◎ 栃木県及び福島県行幸啓(第50回国民体育大会秋季大会ご臨場併せて地方事情ご視察)
10. 19 (木) ○▽ご会見・午餐(クウェート首長殿下)
10. 20 (金) ◎▽・*皇后陛下お誕生日祝賀行事
10. 24 (火) ○▽内奏(内閣総理大臣)
◎ ご臨席(国連50周年記念の集い)(日本武道館)
10. 25 (水) ◎ 園遊会(赤坂御苑)
11. 02 (木) ◎*ご報告(太平洋戦没者慰霊協会会長、厚生政務次官：ハバロフスク「日本人死亡者慰霊碑」竣工追悼式終了につき)
11. 03 (金) ○▽文化勲章伝達式・拝謁(文化勲章受章者)
11. 06 (月) ○▽勲章親授式・拝謁(勲一等以上の勲章受賞者)
○▽拝謁(勲二等勲章受章者)
11. 08 (水) ○▽拝謁(勲三等から勲七等までの勲章受章者)
11. 09 (木) ○▽拝謁(勲三等から勲七等までの勲章受章者)
11. 10 (金)~11. 13 (月) ◎ 長崎県及び宮崎県行幸啓(第15回全国豊かな海づくり大会ご臨席併せて地方事情ご視察)
11. 10 ◎ 「雲仙・普賢岳噴火災害復興の概況」ご聴取(長崎県知事)(島原観光ホテル小涌園：島原市)
◎ ご供花(仁田団地第1公園)(島原市)
◎ 被災者お見舞い(大野木場小学校)(深江町)
◎ ご視察(深江町導流堤)
11. 11 ◎ ご臨席(第15回全国豊かな海づくり大会歓迎レセプション)(ホテルオーシャン45：宮崎市)
11. 12 ◎ ご臨席(第15回全国豊かな海づくり大会)・ご臨席(放流行事)(油津漁港・日南市)
11. 14 (火) ○▽拝謁(勲三等から勲七等までの勲章受章者)
◎*ご夕餐(ルクセンブルク皇太子殿下)
11. 16 (木) ○▽拝謁(褒章受章者)
11. 17 (金) ○▽拝謁(褒章受章者)
11. 22 (水) ○▽内奏(内閣総理大臣)
11. 29 (水) ○ ご視察(緊急消防援助隊合同訓練)(緊急消防援助隊合同訓練場(江東区))
12. 04 (月) ◎ 行幸啓(豊島岡墓地)

- 12.05 (火) ◎*ご説明(内閣官房副長官、内閣官房首席内閣参事官:「戦後50年を記念する集い」について)
- 12.09 (土) ◎*ご挨拶(皇太子妃殿下、お誕生日につき)
- 12.14 (木) ◎*ご説明(防災問題懇談会座長:国・地方公共団体の防災対策について)
- 12.18 (月) ◎ ご臨席(戦後50年を記念する集い)(国立劇場)
- 12.21 (木) ○▽記者会見(お誕生日に当たり)
- 12.22 (金) ◎*ご説明(長崎大学医学部教授、長崎県知事:チェルノブイリ原子力発電所事故による放射線被爆者の現象と医療支援について)
◎*ご説明(兵庫県知事:阪神・淡路大震災の復旧と復興状況について)
- 12.23 (土) ◎▽*天皇誕生日祝賀の儀等祝賀行事(宮殿・御所)
◎▽天皇誕生日一般参賀(3回お出まし)(宮殿)
◎ 皇太后陛下へご挨拶(吹上大宮御所)
- 12.27 (水) ○▽ご説明(国土庁長官:阪神・淡路大震災の復旧・復興対策について)
◎ 皇太后陛下へご挨拶(歳末につき)(吹上大宮御所)

備考:両陛下(◎),天皇(○),皇后(☆)/宮殿(▽),御所(*),東宮御所(※)/「天皇皇后両陛下のご日程」を参照し作成、大震災関連の報告者・説明者、内奏事例には下線を、また戦後50年関連の事象には日程(曜)に、それぞれ下線を付した。

二〇一一年三月一日(金曜日、午後二・四六)に突然襲来した未曾有の大地震・大津波と、それによって惹起された福島第一原発・放射能事故は、多大の死者・遭難者と壊滅的な被害をとりわけ福島・宮城・岩手三県に齎しただけでなく、日本の政治・経済・社会システムをも震撼し、沿岸部共同体や福島県下市町村に離散危機を招来した。他方、東北人(日本人)の我慢強さ・しなやかさ(resilience)や秩序維持行動に対する状況的な共感共同体が内外に醸成され、復旧・復興への色々な支援ソフト(ネットワーク)がときに自律的に編成展開され、そして、大地震・原発事故・節電にちなむ反省共同体の生成や関係追求欲動の現出などがみられる事になった。ここに、皇室の存在理由や宮内庁の危機対応が問われ、まさしくソフトパワー(被災者に寄り添い、真摯に祈る)を実証する慰問儀礼が、以下のように精力的に展開されることになった。

① 宮内庁は、さっそく三月一四日(月曜)、両陛下の決定にもとづき春の園遊会(四・二八開催予定)の取り止めを発表、そして、両陛下の意向に沿って節電のため当分の間、「信任状捧呈式と認証官任命式」以外については原則的に皇居・宮

表7 天皇后及び各皇族の避難所訪問、被災地お見舞い一覧
(2011年・東日本大震災、福島第一原発事故)

経過	天皇后	皇太子夫妻	秋篠宮夫妻	その他の皇族
3. 11 14:46 4. 11 黙禱	3. 15 「自主停電」スタート 3. 16 天皇、ビデオで発信 3. 30 避難所訪問、スタート (足立区、東京武道館) 4. 08 旧騎西高校 (埼玉県加須市)	4. 06 避難所訪問(調布市) (味の素スタジアム)	4. 07 避難所訪問 (江東区、東京国際展示場)	
5. 11 ②	4. 14 津波被災地訪問 (千葉県旭市) 4. 22 被災地訪問 (北茨城市・大津漁港) 4. 27 宮城県・被災地訪問 (南三陸町、仙台市) 5. 06 岩手県・被災地訪問 5. 2 予定*(釜石・宮古市) ▽5. 10 菅首相、震災説明 5. 11 福島県・同市、相馬市 (自衛隊ヘリ中で黙禱)	5. 07 避難所(三郷市) (瑞沼市民センター)	4. 14 避難所訪問 (新潟県長岡・小千谷市) 4. 25 避難所訪問(群馬県) (中之条町・東吾妻町) 5. 10 被災地訪問 (青森県三沢市、八戸市)	A/4. 20 避難所訪問 (川崎市とどろきアリーナ)
6. 11 ③	5. 21~22 和歌山県 (田辺市、全国植樹祭) 6. 4~7 葉山御用邸	☆5. 14 全国みどりの 愛護のつどい(富山市) 6. 04 被災地訪問 (宮城県岩沼市・山元町)	5. 25~26 被災地訪問 (岩手県大槌町・山田町) 5. 30 千鳥ヶ淵戦没者墓苑 (拝礼式臨席) ☆6. 2~3 山口県 (全日本愛瓢会総会・展示会)	B 2/5. 23-24 宮城県訪問 (自衛隊松島基地、石巻市等) A/5. 27 避難所訪問 (栃木県大田原市) C/5. 30 被災地訪問 (宮城県亶理町) a/6. 6 被災者見舞い (岩手県、動物救護所も)

経過	天皇皇后	皇太子夫妻	秋篠宮夫妻	その他の皇族
7.11 ④		☆6.21～25 ドイツ訪問 (日独交流150周年)	6.17 水族館視察、避難所 (福島県いわき市) 6.27 被災者お見舞い (宮城県気仙沼市) 7.08 被災状況視察(宮城県) (石巻市, 松島水族館)	A/6.15 青森県大蛇漁港 (八戸市・海岸防災林) A/7.6～14 英国訪問 (高松宮記念世界文化賞)
8.11 ⑤	7.18 W杯決勝戦テレビ観戦 (「なでしこジャパン」優勝) 7.26～29 那須御用邸 (避難所もお見舞い) 8.08 避難者お見舞い (板橋区・成増団地)	☆7.13～14 山形県天童市 (献血運動推進全国大会) 7.26 被災者お見舞い (福島県郡山市) ☆7.27～29 青森県 (全国高校総合体育大会) 8.05 被災者お見舞い (岩手県大船渡市)	7.13～14 和歌山県(全国農業 コンクール全国大会) 7.27 全日本高校馬術競技大会・ 開会式(静岡県) 8.4～5 福島県会津若松市 (全国高校総合文化祭)	
9.11 ⑥	8.23～29 軽井沢・草津町 (静養, ワークショップ) ▽9.02 親任式・認証官任命式 (野田佳彦新首相・新大臣等) ☆9.9～12 北海道行幸(啓) (国際微生物学連合の式典) 9.11 東北地方南部の方を向き 約1分間黙禱	8.11～9.1 那須御用邸 (一家で静養)	☆8.23～24 那須御用邸 (眞子さん同伴)	A/9.01 東京都慰霊堂 (秋季慰霊大法要)

10.11 ⑦	<p>9.30～10.2 山口県訪問 (国民体育大会)</p> <p>▽10.7 野田首相夫妻と夕餐 (首相新任につき、御所)</p> <p>10.8～11 葉山御用邸</p>		<p>9.15 福岡県訪問 (福岡アジア文化賞授賞式)</p> <p>10.10～11 山口県訪問 (国体総合閉会式に出席)</p>	<p>C/9.16 陸前高田市訪問 (全日本軟式野球大会臨席前)</p> <p>C/9.24 式典に先立ち 被災者お見舞い(青森)</p>
11.11 ⑧	<p>10.13 秋の園遊会</p> <p>10.20 皇后・喜寿祝賀</p> <p>▽10.25 菅前首相夫妻と夕餐 (首相退任につき、御所)</p> <p>*11.6 天皇入院(～11.24):皇太子、国事行為臨時代行(11.7～12.6)</p> <p>1.7 秋の叙勲・大綬章親授式(皇太子が臨時代行)</p>	<p>☆10.21～22 山口市 (全国障害者スポーツ大会)</p> <p>10.26～27 サウジアラビア ☆(皇太子病死・弔問)</p> <p>☆10.28～30 京都市 (国民文化祭閉会式)</p> <p>*11.1～5 愛子内親王入院</p> <p>☆11.16 宮中晩餐会 (ブータン国王歓迎)</p>	<p>*10.23 眞子さま20歳に (宮中三殿参拝、勲章親授式)</p> <p>*11.3 悠仁親王「着袴の儀」</p>	<p>C/10.18 千鳥ヶ淵戦没者墓苑 (秋季慰霊祭に臨席)</p> <p>B1/10.22 結婚70年</p> <p>C/10.24 閉会式に臨席 (全国障害者スポーツ大会)</p>

備考：常陸宮夫妻(A)、三笠宮崇仁殿下夫妻(B1)・寛仁殿下(B2)、高円宮妃殿下(C)、小文字は妃殿下

☆は単独の行啓/主に宮内庁ホームページ、MSN産経ニュース・「皇室ウィークリー」を参照して作成

▽11.12 政府・東京電力、福島第一原発の敷地内を報道陣に初公開(細野原発担当相の事故収束作業視察に記者同行)、吉田雅郎所長、報道陣の取材に、「3月11日から1週間で死ぬだろうと思ったことは数度あった/安定してきたのは7、8月になってから」と語る/吉田所長入院(11.24)、退任(12.1)

▽11.29 天皇皇后、東日本大震災消防殉職者等全国慰霊祭に臨席(港区、ニッショーホール)

殿を使用せずと決めた。続いて一五日、天皇主導で「自主停電」を始動させ、翌一六日、被災者や国民に向けて天皇のビデオ・メッセージを発信した（初出の表現儀礼）。

- ② 天皇后は連日（三・一五〜一八）、交互に前原子力委員会会長代理・警察庁長官・東大医科研教授・日赤社長・海上保安庁長官を御所に招請、原発事故関連や救助・救護活動の説明をうけて状況把握に専心した。そして、春季皇霊祭・春季神殿祭の儀（三・二一）を終えて、今度は皇后が単独で、まず日本看護協会会長と副会長から「東北地方の災害に対する救護活動等・放射線健康管理等」について活動状況を聴取（三・二三〜二四）、続いて、東大医学部附属病院院長に「乳児と放射線被爆」について説明を求め（三・二九）、かくして、両陛下による「避難者お見舞い」に着手していく。天皇后は、四月以降も適宜、職務担当者や専門家を御所に招いて熱心に説明を聴取している。もとより、以上のような説明聴取は、天皇（皇后）のそれとの頻度の違いはあれ、皇太子（夫妻）や秋篠宮（夫妻）も並行して行っている。

- ③ 「表7」に見るごとく、天皇后は三月三〇日（水曜）に東京武道館に赴き避難者を見舞い、以後、毎週のごとく避難者訪問・津波被災地訪問・東北三県被災地訪問という慰問儀礼を重ね（二ヶ月経過までに延べ七回）、月ごとの節目にはそれぞれ深々と黙禱する儀礼を行っている。両陛下の先導をうけて、皇太子夫妻（四・六）・秋篠宮夫妻（四・七）・常陸宮夫妻（四・二〇）が順次連携、まず都内・神奈川県下の避難所を分散訪問しては膝をついて慰問、その後の被災地訪問の際には、対面慰問に加えて悲惨な景観を眼前にして丁寧な慰霊黙礼をそれぞれ表現していく。大震災後の百日間のあいだに、皇太子夫妻は雅子妃の体調考慮や愛子内親王登校の付き添いもあって月一回のペースで（計三回）、秋篠宮夫妻は程よい間隔で五回に亘り、それぞれ慰問儀礼を展開している。そして、常陸宮夫妻↓三笠宮寛仁殿下↓常陸宮夫妻↓高円宮久子妃といった順列で三宮家によ

る儀礼同調が軌跡として描かれている。別に、華子妃は単独で岩手県を訪問（六・六）、避難所で被災者を見舞ったほか、日本動物福祉協会の名誉総裁として、「動物いのちの会いわて」が主催する動物救護所に激励に赴いている。先の高円宮妃の津波被害地訪問（五・三〇）に際しても、久子妃は「日本水難救済会」名誉総裁として、長女（承子女王）を伴って仮事務所のある海辺で献花し激励している。

- ④ 六月中旬以降の三ヶ月の展開に着目してみると、天皇皇后は八月に都内避難者をお見舞いしている。皇太子夫妻は七月・八月に各一回、そして秋篠宮夫妻は六月後半に二度、七月上旬に一度、それぞれ通常のイヴェント行啓をこなしつつ、東北被災地に足を運んでいる。秋篠宮の場合、日本動物園水族館協会総裁として、水族館の被害状況視察も併せて行っている。ほかに、常陸宮夫妻が六月一五日に青森県をお見舞い、階上町の大蛇漁港にて津波被害にあった漁業施設を視察し、関係者を激励している。震災半年を迎えた九月一日、天皇は「国際微生物学連合二〇一一会議記念式典」臨席・併せて地方事情視察の北海道行幸（皇后は頸椎症で同伴取り止め）の途上にあつたが、地震発生時刻に合わせて東北地方南部に向け一分間の黙禱、皇居・御所では皇后がこの黙禱に共時的に同調している。

- ⑤ 半年の区切りのついた後、一月一日までの皇室動静は「平常化」している観があるが、高円宮妃のみは、ときに地方行啓の折り（九月後半）、慰問儀礼を重ねている。すなわち、全日本軟式野球連盟の名誉総裁として、天皇賜杯第六六回大会に臨席すべく岩手県を訪問した際、野球大会開会式に先立ち悲惨な津波被害を被った陸前高田市に出向き仮設住宅を見舞っている（九・一六）。そして、「第19回地域伝統芸能全国フェスティバルあおもり」等のイヴェント臨席の節には、これまた式典に先立ち被災者を慰問している（九・二四）。

表 8 御用邸等での天皇・皇后の「ご静養」一覧

平成 西暦	葉山御用邸	那須御用邸	須崎御用邸	御料牧場	軽井沢, 草津など	備 考
元年 1989		* 8. 26~ 9. 3				
2 1990		* 8. 19~26			◎8. 7~12	千ヶ滝プリンスホテル
3 1991	1. 12~17	* 8. 16~ 8. 21	4. 26~30			9. 26~10. 6 タイ 他
4 1992	1. 14~21 6. 12~16	* 8. 24~31	7. 17~21			10. 23~28 中国
5 1993	1. 16~18 12. 8~12					8. 6~9 ▼ベルギー 9. 3~19 伊独など
6 1994	2. 4~ 7 5. 13~15 10. 21~23	8. 25~30	7. 18~22			6. 10~26 米国 10. 2~14 仏西など
7 1995	5. 2~ 6 9. 14~19		7. 7~14			
8 1996	1. 23~29 4. 5~ 8 10. 25~28	7. 23~25 7. 27~29	8. 16~23			
9 1997	6. 18~22 10. 11~13 12. 5~ 8		8. 22~29			5. 30~6. 13 #南米
10 1998	1. 23~27 3. 28~31 6. 12~17 10. 9~13	7. 21~24	8. 26~31			5. 23~6. 5 #英国等
11 1999	1. 21~26 3. 24~29 10. 8~12	9. 13~17	8. 24~31			
12 2000	1. 24~28 3. 23~28 6. 8~11	8. 22~26 9. 17~21				5. 20~6. 1 #オランダ他
13 2001	1. 23~29 4. 12~16	9. 13~18	8. 27~31			
14 2002	1. 24~28 4. 4~10	8. 1~ 5	8. 21~28	9. 13~15		7. 6~20 ポーランド他
	10. 12~14					9. 28~10. 3 スイス

平成 西暦	葉山御用邸	那須御用邸	須崎御用邸	御料牧場	軽井沢, 草津など	備考
15 2003	2.24～ 3.4# 5.23～27	9.12～16			◎8.26～29 ○8.29～31	ホテル鹿島ノ森
16 2004	2.5～8 3.25～30 6.18～22	9.17～21	8.1～5			
17 2005	2.2～7 5.28～31 10.8～11	9.1～5	7.25～29	3.29～31		5.7～14 ノルウエー 6.27～28 サイパン
18 2006	3.26～29 11.2～5	9.13～16		3.29～ 4.2#	☆8.28～30	6.8～15 シンガポール他
19 2007	2.2～7 6.6～10 10.6～10	9.12～15			☆8.28～30	5.21～30 スウェーデン他
20 2008	2.1～6 4.25～29 9.12～16	10.24～27		3.27～30	◎8.24～28 ○8.28～30	ホテル鹿島ノ森
21 2009	2.5～8 5.1～5 9.12～16	7.26～29		3.26～29	◎8.24～27	4.10 結婚50年 7.3～17 加・米国 9.16 鳩山内閣発足 11.12 在位20年式典
22 2010	2.3～7 (取消) 6.4～8 9.15～19	7.26～29	4.5～9		◎8.24～27 ○8.27～29	6.8 菅内閣発足 9.17 菅改造内閣 (葉山から日帰り)
23 2011	2.2～7 6.4～7 10.8～11	7.26～29			◎8.23～27 ○8.27～29	3.11 東日本大地震 9.2 野田内閣発足

備考：*は附属邸滞在，◎は軽井沢，○は草津滞在（☆は皇后のみ），#は越月滞在，▼は葬儀
参列/平成20年までは『皇室手帖』第5号を参照，以降は宮内庁ホームページを参照。

以上、皇室による慰問儀礼（「祈りのたび」）を遂行するその連携作戦の展開を略述してきたが、東日本大震災に伴う節電対策の状況の推移や政治儀礼への影響等を、翻って点検しておこう。

⑥ 菅首相は、天皇皇后が大震災二ヶ月に合わせて被災地福島県（福島市・相馬市）のお見舞いに出かけるその前日（五・一〇）に、「東日本大震災への対応につき」両陛下に直接説明している。震災についてのかかる直接説明は「平成に入って初めて」とのこと。そして、宮内庁は、那須御用邸の職員用宿舎の温泉施設を三月二六日から「近隣地域にいる東日本大震災の避難者」に提供開始してきたが、大震災から二ヶ月経過したこの時期に、御料牧場（栃木県）で採れた卵・野菜それに缶詰等の避難所への提供終了と併せて、その開放を終了すると発表した（五・一二）。一区切りがついた次第である。

⑦ 天皇は六月九日、お住まいの「皇居・御所」で西アフリカ・トーゴ国のニヤシンベ大統領（前日に埼玉県加須市の避難所お見舞い）と会見されたが、外国元首との会見はこれが震災後初めてのケース。春の叙勲の発表（通常は四月下旬）は大震災を考慮して六月に延期され、その大綬章親授式は六月二四日に執り行われた。六月二七日の夜・午後八時半過ぎから、「皇居・宮殿の松の間」において細野豪志首相補佐官を原発事故収束・再発防止担当相に任ずる認証式が行われたが、七月五日の夜に催された認証官任命式（平野達男震災復興担当大臣・山口壮内閣府副大臣）は、「七月以降、目標を定めた節電対策が本格的に始まった」ことにちなみ、初めて「御所（の広間）」で執行された。なお、九月二日、野田佳彦新首相の親任式、新大臣等の認証式は「宮殿」で催されている。

⑧ 宮内庁は、「政府の夏場の節電計画が終了した」ことを受けて、「消費電力の大きい宮殿」の使用を一〇月以降は再開することとし、「国事行為に関連する行事など公的、儀式的色彩の高い行事は原則として宮殿で行う」

と表明した(一〇・三、宮内庁次長・定例会見)。ただし、節電継続の方針は変更せず、「陛下の定例のご執務や、両陛下が新任外国大使夫妻などと親しく会われるお茶などは引き続き、お住まいの御所で行われる」。

さて、天皇皇后は、ともあれ一連の慰問儀礼を遂行し終えて、八月下旬には例年よりも長めに軽井沢・草津町で休養する日程を確保したが、皇后は右膝下の下腿筋膜炎のため神嘗祭神宮遥拝の儀(一〇・一七)を欠席、天皇は一月に入って、蓄積した疲労のゆえか、「お風邪による発熱のため、文化勲章受章者及び文化功労者等茶会(一・四)へのお出ましは取りやめ」、やむなく皇太子がご名代としてお出ましになった。天皇は一月六日に東大病院に入院、ここに、天皇日程や行幸啓日程はしばし皇太子日程として変換されることになった(一一・七より皇太子が国事行為を臨時代行、一二・六解除)。一月三日、愛子内親王の入院するなか(一一・一―五)、九月六日に五歳になった悠仁親王の「着袴の儀」「深曾木の儀」(当初は四月実施予定)が、東京・元赤坂の赤坂東邸で催された(一一・三)。

本章を結ぶにあたり、公務その他で多忙な天皇皇后の、しばしの「ご静養日程(平成一―二三年)」(表8)を、参考情報として掲載する。

II 皇居における応対・関係儀礼にみる象徴天皇制の儀礼構造

天皇が応対する形式については、公式性の強いものから非公式性に傾斜した様式まで多様であるが、それらは「公式―非公式」尺度をもとに分類されよう。すなわち、皇居・宮殿で行なわれる国賓・公賓等との「会見」や、外国の首相・議長・離任大使等の「引見」、三権関係高官・各種功労者・赴任大使等の「拝謁」、それに概して御所

でなされる「接見」や「懇談」、そして、蓮池参集所などで展開される皇居清掃奉仕者への「会釈」などが、この対面儀礼尺度に沿って相対的に配置されている。一般的に、宮殿で行なわれる関係儀礼のほうが、御所で催されるそれよりも、公式性が強いものと見立てることができよう。ちなみに、二〇一一年三月一日に起きた東日本大地震・大津波にちなむ節電対策に鑑み、天皇家では厳格に節電対策を講じ被災者に寄り添う象徴的行為を実践してみたが、これに伴い宮殿での対面儀礼等を御所にて執り行う措置がとられた。

同様な尺度で、天皇との共食やお茶などのケースを分類することができるが、ここではそれを「コミュニケーション」尺度と仮称しておく。食事については、宮殿で催される国賓を迎えての「晩餐会」や外国の要人・大使や国内の三権関係者等との「午餐」、それに御所で催される王族や日本の首相・議長等夫妻との「夕食」、元首クラスでない王族や外国訪問先の日本大使等との「昼餐」がある。「お茶」の様式にも宮殿で催されるものと御所でのケースに分けられる。後者には帰朝大使夫妻の招待、学士院・芸術院会員との懇談等があり、非公式性が増すようである。

一 「対面」と「共食」にみる儀礼秩序

(一) 宮殿における対面儀礼の構造

ここでは、二〇〇七年の事例についてのみ便宜上、「表9-1(1)」、「(2)」として、「ご会見・ご引見」と「信任状捧呈式・ご接見・ご懇談」のケースを分けて提示したが、皇居・宮殿で催される「ご会見・ご引見・信任状捧呈式(a-s-c)」は国際親善・外交にからむ対面儀礼である。明仁天皇は、国賓・公賓(元首等)との「ご会見」に際しては、相手が単独であれば単独で対面し、夫妻お揃いであれば美智子皇后ともどもお会いする。この儀礼様式は、なるほど「ご引見」のケースでも同様である。もとより、天皇の専管儀礼に属する「信任状捧呈式」には皇后は臨

表9-（1） 天皇との会見・引見等一覧（2007年）

2007年	(a) ご 会 見（宮殿）	(b) ご 引 見（宮殿）
1月	1.22 ○モザンビーク大統領夫妻	
2月	2.01 キリバス大統領夫妻 2.14 ○チェコ大統領夫妻	2.19 離任大韓民国大使夫妻 2.21 ☆米国副大統領 2.23 ルーマニア首相夫妻 2.27 ロシア首相夫妻
3月	2.28 ○モンゴル大統領夫妻 3.08 ☆ボリビア大統領 3.09 グルジア大統領夫妻 3.12 ☆リベリア大統領 3.26 ◎スウェーデン国王夫妻	3.14 ☆英国イングランド・ウェールズ首席裁判官 3.14 スリランカ国会議長夫妻 3.16 離任ギニア大使夫妻
4月		4.05 タイ首相夫妻 4.09 ☆イラク首相 4.12 ☆中華人民共和国國務院総理 4.16 イタリア首相夫妻 5.15 ☆ラオス首相 6.13 メキシコ下院議長夫妻 6.14 ☆カンボジア首相 6.21 離任ルクセンブルク大使夫妻
5月		
6月		
7月		7.02 ☆離任シリア大使 7.12 ☆離任ハンガリー大使 7.18 離任クウェート大使夫妻 7.19 離任エジプト大使夫妻 7.26 離任ナイジェリア大使夫妻 7.26 離任キューバ大使夫妻 7.30 離任ニカラグア大使夫妻 8.06 ☆離任イスラエル大使 8.09 離任ジャマイカ大使夫妻 8.30 ☆ドイツ首相 9.10 ☆離任チュニジア大使 9.21 離任オマーン大使夫妻
8月		
9月	9.03 ○☆チリ大統領	
10月	10.15 ○ナミビア大統領夫妻	10.05 離任マダガスカル大使夫妻 10.15 カンボジア国民会議議長夫妻 10.19 離任イエメン大使夫妻
11月	11.15 キルギス大統領夫妻 11.26 ◎ベトナム主席夫妻 11.30 ☆ミクロネシア大統領	
12月	12.05 ☆タジキスタン大統領 12.10 ○スリランカ大統領夫妻 12.17 ○☆アラブ首長国連邦アブダビ皇太子	12.07 ツバル首相夫妻 12.27 離任ベトナム大使夫妻 12.27 離任リビア大使夫妻

備考 ① 天皇単独で会ったケースは☆を付した。

② ご会見の欄で◎が付いているのは国賓、○は公式実務訪問を表す。

表9-(2) 天皇との接見・懇談・信任状捧呈式一覧(2007年)

2007年	(c) 信任状捧呈式(宮殿)	(d) ご接見(宮殿/*御所) (e) ご懇談(△/*御所)
1月 2月		1.16 △*経済団体の長 2.16 △*文科省研究振興局長他
3月	3.07 ☆ペルー, アンゴラ 3.15 ☆コロンビア, ウルグアイ	2.26 *シニア海外ボランティア等 2.28 *国際連合児童基金 UNICEF 3.07 △*文科省研究振興局長他
4月 5月 6月	4.05 ☆ラオス, トルコ 4.23 ☆ウクライナ, ロシア 4.25 ☆ボリビア, 大韓民国	6.14 △*農林水産祭前年度関係者
7月 8月 9月	7.04 ☆ホンジュラス, ニュージーランド 8.20 ☆カザフスタン, オーストリア 8.23 ☆ギニア, コスタリカ 9.06 ☆ベナン, イスラエル	7.04 *皇太子奨学金奨学生 9.04 *ユネスコ事務局長 9.20 *青年海外協力隊帰国隊員, 日系社会青年ボランティア等 9.26 日本青年海外派遣団員
10月 11月 12月	10.01 ☆ルクセンブルク, エジプト 10.19 ☆キューバ, ハンガリー 11.02 ☆中華人民共和国, ニカラグア 11.07 ☆イエメン, バルバドス 12.03 ☆タジキスタン 12.13 ☆ネパール, クウェート	10.04 *国際交流基金賞・同奨励賞受賞者 10.22 *サラマンカ大学学長夫妻他 11.02 *★クウェート首長令妹アムサール 11.07 *★当年度「ねむの木賞」受賞者 12.05 △*文科省研究振興局長他 12.06 人事院総裁賞受賞者

備考：宮殿でなく「御所」で会った場合は一律に*のマークを付した。
 なお、天皇単独で会ったケースは☆を、皇后単独は★を付した。

席しない（概して外務大臣が臨席）。二〇〇七年の事例においては、ご会見の対象となる国賓・元首等の来日訪問は一月～三月期と一〇月～一二月期に集中し、首相・議長等は六月下旬までの前半に、また駐日大使の離任引見は七月初めから八月上旬に集中している。

他方、皇居・御所で応接される「ご接見（d）」の場合、両陛下お揃いで接見するケースのほとんどは、国際親善・国際貢献の有意な関係者である。公式性の度合いの増す接見（日本青年海外派遣団員、人事院総裁賞受賞者）では、宮殿が儀礼の場として選択されている。なお、皇后が単独で御所にて接見している事例も見られる。この表に繰り入れた「ご懇談（e）」の事例は、関係担当省がときに天皇の意向を忖度し、適宜出席者をお膳立てしていると想定される。経済団体の長との懇談も恒例化している。

次に、「拝謁」儀礼を見てみよう。「表10」では三つのグループに編成してみた。第一系列には外交・国際親善関係（赴任大使、外国訪問随員）と叙勲褒章関連を、第二系列には広義の三権関係者および皇室を支える公的機関・側近職等の拝謁ケースを組み入れた。人事異動にちなみ、御所にて両陛下が拝謁しているケースは側近職であろう。三権等関係者との関係儀礼については、別に焦点をあてて分析的なコメントを行うが、全国警察本部長会議および自衛隊高級幹部会同の構成メンバーに対しても、司法・検察関係幹部と同様に 天皇拝謁の機会がセットされていることは注目に値しよう。すなわち、治安・防衛組織も日本国を公的に支える主要機関として正統な認知を得ている。

第三の「その他」事例では、行政機関等（関連団体）が表彰・推薦する功労者が主要な対象になっている。ここでは、天皇のみによる拝謁儀礼の機会は、警察大学校警部任用課修了生と伊勢神宮・勅祭社宮司とに限定されている。とりわけ、天皇家と縁の深い伊勢神宮の大宮司交代に際しては、天皇と皇后それぞれ別個に挨拶・拝謁する儀

表 10 宮殿・御所における「拝謁」等一覧（2007年）

① 訪問随員・赴任大使・叙勲者	② 三権等の公務関連	③ その他
1.31 赴任大使夫妻（2組）	1.15 人事異動者 1.29 人事異動者 1.30 ☆参議院副議長 2.01 人事異動者 2.15 ☆全国検事長及び検事正会同参加の検事正など	1.29 厚労大臣表彰の第35回医療功労賞受賞者 1.31 農林水産祭天皇杯受賞者（業績展示等をご覧）
3.15 赴任大使夫妻（5組）	3.16 *人事異動者/人事異動者 3.26 人事異動者	3.01 法務大臣及び矯正協会会長表彰の法務省矯正職員代表 3.08 ☆警察大学校警部任用課第18期学生 3.12 警察庁長官表彰の全国優秀警察職員
4.11 赴任大使夫妻（5組）	4.02 人事異動者/*人事異動者 4.09 ☆衆議院・参議院役員等（お茶） 4.18 宮内庁新規採用職員	4.20 日本郵政公社総裁表彰の郵政事業優績者など
5.02 外国ご訪問随員等（茶会）	5.01 人事異動者	5.08 日赤各都道府県支部の有功会代表者（日赤創立130周年）
5.08 ☆春の勲章親授式・拝謁 ☆春の勲章受章者		
5.09 赴任大使夫妻（2組）		
5.09 ☆春の勲章受章者		
同 10, 11, 14, 15日		
5.16 外国ご訪問につき随員		
5.16 ☆春の褒章受章者	6.15 人事異動者	6.14 皇宮警察本部長表彰の永年勤続功労者
	6.21 ☆全国地裁・家裁所長など	6.28 ☆神宮及び勅祭社宮司など
7.05 赴任大使夫妻（2組）	7.02 *人事異動者/人事異動者	7.02 ☆★新旧神宮大宮司
7.06 皇太子モンゴル訪問主席随員	7.13 人事異動者	
7.19 赴任大使夫妻（3組）		7.19 ☆警察大学校警部任用課第19期学生

① 訪問随員・赴任大使・叙勲者	② 三権等の公務関連	③ その他
8.13 赴任大使夫妻（5組）	8.07 人事異動者 ☆参議院正副議長 （新任につき）	
8.16 赴任大使夫妻（5組）	8.15 人事異動者 8.24 人事異動者	
9.11 赴任大使夫妻（2組）	9.05 人事異動者 9.06 陵墓監区事務所副所長	
10.03 赴任大使夫妻（5組）	9.10 人事異動者 9.19 新任皇宮護衛官 10.02 * 人事異動者/人事異動者	9.26 厚労大臣表彰の第59回保健文化賞受賞者 10.22 文部科学大臣表彰の優良公民館代表者
11.03 ☆文化勲章親授式・拝謁	11.01 ☆全国警察本部長会議に参加する全国警察本部長等	11.08 ☆警察大学校警部任用課第20期学生
11.06 ☆秋の勲章親授式・拝謁		
☆秋の勲章受章者		
☆秋の勲章受章者 同 8, 9, 14, 15日		
11.16 ☆秋の褒章受章者	11.27 ☆自衛隊高級幹部会 同に参加する統合幕僚長等	11.22 総務大臣表彰の地方公共団体税務職員
11.21 赴任大使夫妻（4組）	11.30 人事異動者 12.06 人事異動者	11.28 文部科学大臣表彰の教育者表彰被表彰者
		12.06 厚労大臣表彰の身障者・知的障害者の自立更生者、更生援護功労者、第16回デフリンピック冬季大会等の成績優秀者
	12.12 宮内庁永年勤続表彰者	
	12.12 陵墓監区事務所長	
	12.21 衆院・参院永年在職表彰議員	

備考：御所での拝謁には*のマークを、また天皇单独拝謁には☆を、皇后单独のそれには★を付した。

礼形式が採用されている。ちなみに、天皇は前年（二〇〇六年）三月六日、全国護国神社宮司等にも拝謁の栄誉を賜っている。神道ネットワークは健在ということになる。

本稿では、記述全体においてもつばら共時的な儀礼構造に照準を据え、その特徴を浮描することを試みている。もとより、通時的な変化（儀礼対象・関与者の加減）も微細に追跡し、分析の俎上にあげる必要がある。

(二) 宮殿・御所におけるコミュニケーションの構成

天皇皇后と「共に食事」し、或いは「お茶」する事例を、「天皇皇后両陛下のご日程」から抽出して編成した情報、以下に掲載する「表11」である。ここでも、二〇〇七年事例の紹介に留めるが、新年・誕生日関連の祝賀行事は割愛する。

まず、会食の時間帯で大きく二分し、併せて下位カテゴリーもそこに繰り込んでみた。すなわち、宮殿での晚餐（御所での夕食）と宮殿での午餐（御所での昼餐）、という組み合わせである。この一覽で明瞭のように、宮殿での正式の「晚餐」会は「国賓」を迎え盛大に催され（皇族、三権の長ほか広範な参会者）、他方、御所での「夕食」は非公式性を多少帯びて展開されている（少人数の参会者）。後者の夕食儀礼は、王室間の親善儀礼、外国訪問の事前儀礼、「国権の最高機関」の長等の退任・新任儀礼、という構成になっている。

次に、お昼の時間帯の「宮殿でのコミュニケーション」に注目してみよう。天皇皇后の臨席する「午餐」会のケースは、概して天皇との会見後に催される公式実務訪問カテゴリーの元首夫妻との会食（例外事例はアラブ首長国連邦・皇太子）、折々に適宜セットされている各数組の在京大使夫妻との会食、の二種類に分類される。そして、皇后の臨席しない「午餐」は、三権関係幹部等との食事となっている。他方、「御所での共食儀礼」の事例は、天皇皇后の外国訪問に關与する内外大使夫妻を招待するケースと、公式実務訪問カテゴリーで来日したわけではない、首相夫妻や王室来訪者を招いたケースとに区分けされよう。

第三の系譜として整理した「お茶」の儀礼ケースは、次の三つに大きく分類（更に下位区分）される。①天皇皇后が臨席する宮殿での「お茶」は、各回四組ほどの新任外国大使夫妻を招いて催す親善儀礼（外国交際）であるが、二〇〇七年には延べ八回行われている。②皇后が臨席を遠慮する宮殿での「お茶」には、毎年一回は催される国会

表 11-1 宮殿・御所でのコミュニオン（会食等）一覧：2007 年

2007 年	A 晩宴会/*夕食	B 午餐/*昼餐
1 月		1. 22 宮殿 モザンビーク大統領夫妻（公式実務訪問，会見後）
2 月	2. 19 御所 * 在英国大使夫妻（説明，欧州訪問につき）	2. 14 宮殿 チェコ大統領夫妻（公式実務訪問，会見後） 2. 19 宮殿 在京外国大使夫妻・4 組 2. 22 御所 * 在北欧 3 大使（ご説明）（欧州諸国訪問につき） 2. 28 宮殿 モンゴル大統領夫妻（公式実務訪問，会見後）
3 月	3. 14 御所 * オランダ皇太子 3. 26 宮殿 スウェーデン国王夫妻（国賓） 3. 28 御所 * スウェーデン国王夫妻	3. 07 宮殿 在京外国大使夫妻・4 組 3. 19 御所 * シンガポール首相夫妻
4 月	4. 02 御所 * 在スウェーデン大使（説明，欧州訪問につき）	4. 23 御所 * モナコ，アルベール 2 世
6 月		6. 19 御所 * ブルネイ国王・アジム王子
7 月		7. 04 宮殿 在京外国大使夫妻・4 組
8 月	8. 23 御所 * 前参院正副議長夫妻	8. 20 御所 * 前スウェーデン兼ラトビア大使夫妻
9 月	9. 06 御所 * 新参院正副議長夫妻	9. 03 宮殿 チリ大統領（公式実務訪問） 9. 20 宮殿 在京外国大使夫妻・4 組
10 月	10. 12 御所 * 内閣総理大臣夫妻	10. 04 宮殿 在京外国大使夫妻・4 組
	10. 19 御所 * タイ王女チュラポン夫妻	10. 15 宮殿 ナミビア大統領夫妻（公式実務訪問，会見後）
11 月	11. 26 宮殿 ベトナム主席夫妻（国賓）	11. 22 宮殿☆ 最高裁長官・判事等（お話） 11. 29 宮殿☆ 総務大臣・知事等（同上）
12 月		12. 03 宮殿☆ 会計検査院長・人事院総裁・公取委員長等 12. 05 宮殿☆ 法務大臣・検事総長・高検検事長等（お話） 12. 10 宮殿 スリランカ大統領夫妻（公式実務訪問，会見後） 12. 17 宮殿☆ アラブ首長国連邦アブダビ皇太子（公式実務訪問，会見後） 12. 21 宮殿☆ 総理大臣・閣僚等

- 備考：① 基本的に「晩餐・午餐は宮殿」，「夕食・昼餐は御所」，「お茶は宮殿・御所」，「茶会は宮殿」で行われている。御所でのケースにはいずれも*を付した。
② 天皇皇后の同席が大半であるが，天皇のみの場合は☆を付した。宮殿での祝賀行事に新年（1. 1），天皇・皇后誕生日（12. 23，10. 20）の祝賀があるが割愛。

表 11-2 宮殿・御所でのコミュニオン（お茶等）一覧：2007 年

2007 年	C お茶（宮殿/*御所），#茶会（宮殿）	
1 月	1. 17	* 婦朝大使夫妻・3 組
	1. 18	新任外国大使夫妻・4 組
	1. 22	* 婦朝大使夫妻・4 組
	1. 22	* ニュージーランドマオリ王夫妻
	1. 29	* 婦朝大使夫妻・4 組
2 月	2. 08	* 婦朝大使夫妻・4 組
	2. 22	* 日本芸術院第一部会員
3 月	3. 26	* 元米国国務長官夫妻
4 月	4. 09	* スウェーデン国王姉一家
	4. 09	☆ 衆院・参院役員等（拜謁）
	4. 12	* 婦朝大使夫妻・4 組
5 月	5. 02	# 外国ご訪問随員等
	5. 16	新任外国大使夫妻・4 組
6 月	6. 01	* ヨルダン国ムナ王母
	6. 11	# 日本学士院受賞者・新会員等
	6. 13	# 外国訪問尽力者
	6. 18	# 日本芸術院受賞者・新会員等
7 月	7. 02	* 婦朝大使夫妻・4 組
	7. 12	新任外国大使夫妻・4 組
	7. 18	* 婦朝大使夫妻・4 組
8 月	8. 09	* 婦朝大使夫妻・4 組
9 月	9. 06	新認定重要無形文化財保持者夫妻
10 月	10. 03	* 日本学士院第一部会員
	10. 10	* 日本学士院第一部会員
	10. 11	新任外国大使夫妻・4 組
	10. 22	新任外国大使夫妻・4 組
11 月	11. 05	# 文化勲章受章者・文化功労者
	11. 08	* 婦朝大使夫妻・4 組
	11. 28	新任外国大使夫妻・4 組
12 月	11. 29	* 日本芸術院第一部会員
	12. 10	☆ 退職認証官
	12. 12	☆ 退職認証官
	12. 14	新任外国大使夫妻・4 組
	12. 21	新任外国大使夫妻・4 組
	12. 26	* 婦朝大使夫妻・4 組

備考 ① 茶会のケースには#を付した。無印は「お茶」の事例である。
 ② 天皇皇后の同席が大半であるが、天皇のみの場合は☆を付した。

役員等の拝謁とセットになった「お茶」と、憲法第七条（国事行為・五項）により天皇が執行した認証官任命式の儀礼的帰結として、そうした認証官の退職に際する慰労を兼ねた「お茶」がある。③天皇皇后が臨席する御所での「お茶」の場合、日本芸術院・日本学士院の第一部会員を各二回に亘って招待、そして、年間九回ほど開催される帰朝大使夫妻（各四組）との会合、といった制度化されたケース、それに、ときに来日した友好国元高官や王室関係者を招待するアドホックな事例がある。

食事も伴う宮殿での「茶会」儀礼を点検してみると、いずれも両陛下が臨席しているが、日本学士院・日本芸術院に関わる受賞者並びにその新会員等が参会するケースと、天皇皇后の外国訪問に有意に関与・寄与した人々を慰労するケースとに分類される。

天皇皇后は、これらの儀礼を介して国際事情や文化事情などに関する知的情報を拡充・更新し、言わばソフトウェアの充電につとめている。もとより、招待された側において、交換として直接的な返礼や間接的な寄与がなされ、象徴天皇制の受容・支援ネットワークが構築され維持されていく。

二 三権関係者との関係儀礼

天皇（皇室）と行政・立法・司法の「三権の長」等との相互作用に着目すると、首相・衆参両院議長・最高裁長官らは、新年祝賀や天皇誕生日ほか皇室のいくつかの儀式・儀礼に参向したり、新嘗祭等に招待され参列している。また、天皇皇后の三大地方幸啓や外国訪問に際しては、羽田空港（ないし東京駅）における送迎儀礼を交互に分担している。首相は、外国訪問を終え帰国すると、速やかに皇居に出向き、記帳する儀礼慣習を踏襲している。

(一) 祝賀行事の儀礼構造

天皇は、二〇一一（平成二三）年元旦、早朝五時前に御所で潔斎、綾綺殿で儀礼服に着替え、新嘉殿南庭にて伊勢の神宮・山陵および四方の神々を遙拝する「四方拝、五・三〇」行事、引き続き賢所・皇靈殿・神殿（宮中三殿）で「歳旦祭（小祭）、五・四五」の拝礼を済ませ、お住まいの御所に戻ってくる。天皇は御所で八時ころ皇后と「お祝膳」を召し上げる。そして、両陛下と「侍従長始め侍従職員」が御所に参会して午前九時五分から「祝賀及びお神酒」行事が進行する。こうして御所での儀礼を終えると、天皇皇后は正装して（勳章をまとい）宮殿に移動、まず、天皇は九時三〇分、「花の間」で「晴の御膳」に箸をつけられ、そのあと以下のような元旦儀礼に「両陛下お揃い」で臨んでいる¹⁵⁾。天皇を機軸とする二〇一一年冒頭の公式儀礼に、序列構成の典型がみてとれよう。

① 宮殿・「表御座所」棟の「鳳凰の間」で九時四五分、「長官始め課長相当以上の者と参与・御用掛」より祝賀を受ける。ちなみに、鳳凰の間は首相・大臣から内奏を受けたりする際に使われている。

② ☆ 一〇時、宮殿・「正殿」棟の「松の間」において、「皇太子同妃お始め皇族各殿下」より祝賀あいさつ、これは「祝賀の儀」として取り運ばれる。ちなみに、松の間は宮殿内でも格式の最も高い部屋で、ここでは首相親任式・勳章親授式・信任状捧呈式・歌会始ほか重要な儀式が催されている。

③ 続いて一〇時一〇分、正殿・「竹の間」にて、「元皇族、御親族」からの「祝賀」を受ける。

④ 両陛下は「表御座所」棟の「鳳凰の間」へ移動、一〇時一五分、「未成年皇族」より「祝賀」。

⑤ ☆ 以上、宮内庁・皇室関係者からの祝賀儀礼を終えて、次には午前一一時から「正殿」棟の三つの間で三権の長・幹部等による各挨拶儀礼が、「新年祝賀の儀」として執り行われる。「両陛下お始め」各成人皇族が「出御」されるなか、「内閣総理大臣始め」執政府高官夫妻が「梅の間（一五二m）」で、次いで「松の間（三七〇

㎡)にて「衆議院議長及び参議院議長始め」立法府高官夫妻が、「竹の間(一八二㎡)」では「最高裁判所長長官始め」司法府高官夫妻が、最後に一一時三〇分、「松の間」において「認証官等」が、すなわち、人事院人事官・公正取引委員会委員長・検事総長(次長検事、検事長)・会計検査院檢察官などの認証官、それに加えて各省事務次官・都道府県知事(議会議長)・各界代表者らの夫妻が、それぞれ祝賀儀礼に参列している。

⑥ 次に、再び「表御座所」棟の「鳳凰の間」で午前一一時四〇分、両陛下下に「堂上会総代(三名)」が新年に際する祝賀を申し述べた。ちなみに、堂上会は旧公家子孫の会である。以上で午前部は終了する。

⑦ 両陛下は、皇族との昼餐を挟んで、午後の部として、宮殿・「長和殿」棟の北車寄せに近い「北溜(きただまり)」に臨み、午後一時一〇分に「宮内庁職員及び皇宮警察本部職員」から、午後一時二〇分に「旧奉仕者会会員(元宮内庁職員及び元皇宮警察本部職員)」より、それぞれ集合的に新年の挨拶を受ける。

⑧ 次いで、両陛下は正殿・「竹の間」に出御、午後一時三〇分、「元参与、松栄会会員、元側近奉仕者、元御用掛」といった「内輪の縁者」から祝賀を受けている。なお、松栄会は昭和天皇の旧奉仕者会。

⑨ ☆ 締めくくりは、元旦第三回目の国事行為・「祝賀の儀」である。それゆえ、午後二時三〇分、「両陛下お始め」各成人皇族が正殿・「松の間」にお出ましになり、「各国の外交使節団の長及びその配偶者」が、すなわち、国柄を表す正装で各国大使が着任順に並び、一組ずつ両陛下下に最敬礼する。一五〇ヶ国弱の駐日大使夫妻と国際機関の大使夫妻が繰り出すとなれば、優に一時間以上に及ぶ儀礼となる。

横線を付した箇所を点検しつつ、以上の儀礼展開を翻ってみてみると、「☆新年祝賀の儀」に参画するのは六グループ、他に「祝賀」グループが七つ、両陛下は総計千人ほどから祝賀を受け、天皇が出席した行事は宮内庁発表分だけでも一八件を数えるという。第一回目の「祝賀の儀」(②)の場合、天皇皇后が「松の間」の正面中央に立

つと、皇族の儀礼順位に従って皇太子夫妻から順々に出御され、御前で最敬礼して新年の祝詞を申し上げる形で儀礼が滞りなく進展する。第二回目の「祝賀の儀」系列(⑤)にあつては、各集合が整列に及ぶと、両陛下が同じく各部屋の正面中央に立ち、その中心に向かつて左側に男性皇族そして右側に女性皇族が布陣する。そこで、首相・衆議院議長・最高裁長官・最年長者が、それぞれ「御前に」進み出て簡潔な新年の祝詞を申し上げ、それに応答して天皇から「国家の繁栄と国民の幸福を祈ります」といった趣旨の「お言葉」がある。

もとより、国事行為の儀礼空間としては正殿「松の間」が相応しいが、三権関係者等の祝賀儀礼の系列では、出席者人数をも考慮しつつ祝賀行事が円滑に流れるように、「松の間」の左右に並置している「梅の間」と「竹の間」も儀礼空間に繰り込んで、巧みに配列されている。ちなみに、立法院関係では、衆参両院議長・副議長、両院議員、各院の事務総長(次長)・法制局長・調査局長、それに国会図書館長・副館長が「祝賀の儀」参列の招請対象になっている。

かくして、天皇との公式的・立憲的な関係距離に従って儀礼秩序が構成され、内輪性ないし側近性の度合いの大きなグループには、「表御座所」棟の「鳳凰の間」が準公式的な儀礼空間に充てられ、そして皇室を身近で行政的・警衛的に支える仕事をしている現(元)職員グループには、逆に懇意に応答できる「北溜」が非公式性を象徴する空間として選択・峻別されていることが了解されよう。参考に、二〇〇九年の天皇誕生日と金婚式における祝賀儀礼の次第を簡略化して掲載する。上記と同様に、「祝賀の儀」等には☆を付した。

▽天皇誕生日の祝賀儀礼(二〇〇九年二月三日 水曜日)

宮中三殿での儀礼

天皇 天長祭の儀

「宮殿」での儀礼

天皇 祝賀（長官始め課長相当以上の者、参与及び御用掛）

皇后 祝賀（長官、次長（総代）、参与）

両陛下 一般参賀

天皇 ☆祝賀の儀（皇太子同妃お始め皇族各殿下）

皇后 祝賀（皇太子同妃お始め皇族各殿下）

両陛下 お祝酒（皇太子同妃お始め皇族各殿下、元皇族、ご親族）

両陛下 一般参賀

天皇 祝賀（宮内庁職員及び皇宮警察本部職員）

両陛下 一般参賀

天皇 祝賀（旧奉仕者会会員）／祝賀（堂上会総代）

天皇 ☆祝賀の儀（内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長、最高裁判所長官）

両陛下 ☆宴会の儀（内閣総理大臣等）

両陛下 祝賀及びお祝酒（元長官、元参与、元側近奉仕者、元御用掛、松栄会会員等）

両陛下 ☆茶会の儀（各国の外交使節団の長等）

「御所」での儀礼

両陛下 祝賀及びお祝酒（侍従長始め侍従職職員）

両陛下 祝賀（愛子内親王殿下、眞子内親王殿下、佳子内親王殿下、悠仁親王殿下）

両陛下*茶会(進講者始め)関係者)

両陛下 お祝御膳(皇太子同妃両殿下、秋篠宮同妃両殿下、黒田様ご夫妻)

▽金婚式の祝賀儀礼(二〇〇九年四月一〇日 金曜日)

宮中三殿での儀礼

両陛下 賢所皇霊殿神殿祭典の儀(掌典長及び掌典次長ご代拝)

〔御所〕での儀礼

両陛下 祝賀(侍従長始め侍従職員)

〔宮殿〕での儀礼

両陛下 祝賀(長官始め課長相当以上の者、参与及び御用掛)

祝賀(宮内庁職員及び皇宮警察本部職員)

祝賀(旧奉仕者会会員)

☆祝賀の儀(内閣総理大臣、国務大臣、内閣官房副長官及び内閣法制局長官、衆議院・参議院の議長及び副議長、最高裁判所長官及び判事(長官代行)、会計検査院長、人事院総裁、検事総長及び公正取引委員会委員長等夫妻)

祝賀(皇太子同妃両殿下お始め皇族各殿下)

お祝酒・午餐(皇太子同妃お始め皇族各殿下、元皇族、御親族)

祝賀(外交団長夫妻)

ご鑑賞（皇宮警察本部音楽隊演奏）（宮内庁庁舎前）

* 茶会（本年中に結婚満五〇年を迎える御夫妻約一〇〇組）

「御所」での儀礼

両陛下 祝賀（愛子内親王殿下、眞子内親王殿下、佳子内親王殿下、悠仁親王殿下）

お祝御膳（皇太子同妃両殿下、秋篠宮同妃両殿下、黒田様ご夫妻）

（二）首相の就任・退任の挨拶儀礼

日本の政治慣行として、首相はその就任と退任とに際し、宮家にあいさつ回り（記帳）を行っている。試みに二〇一一年の首相交代に際する実例を、朝日新聞の「首相動静」欄から抜粋して紹介してみよう。

民主党代表選で野田佳彦が新代表に選出されたのを受けて、菅内閣は翌八月三〇日（火）に総辞職し、国会での首相指名選挙で野田佳彦・民主党代表が新首相に選出され、ここに職務執行内閣に移行した。かくして、菅首相は新首相選出を見届けたあと、下記のごとく議会関係者に退任挨拶を行なっている。「（午後）二時一五分、衆院の横路、衛藤正副議長、川端議連委員長、与野党各会派にあいさつ回り。枝野官房長官、仙谷副長官同行。四一分、参院の西岡、尾辻正副議長、与野党各会派にあいさつ回り。枝野長官、福山官房副長官同行」。衆議院への挨拶には衆院議員の官房副長官が、参議院での挨拶には参議院議員の官房副長官が、退任する首相に随行するという儀礼慣行を踏襲している。そのあと、菅首相は速やかに宮家を訪問し退任挨拶を行っている。すなわち、「（午後）三時四分、東京・三番町の桂宮邸。退任のあいさつ。一三分、東京・元赤坂の東宮御所。退任のあいさつ。三一分、東京・元赤坂の赤坂御用地。秋篠宮邸、寛仁親王邸、三笠宮邸、高円宮邸で退任のあいさつ。四時二分、東京・渋谷の常陸宮邸。退任のあいさつ。」

野田内閣は九月二日（金）に皇居での親任・認証式を終えて正式に発足した。その五日後の九月七日（水）、野田首相は「（午後）三時一〇分、東京・三番町の桂宮邸で就任の記帳。二六分、東京・元赤坂の東宮御所で就任の記帳。四一分、東京・元赤坂の赤坂御用地。秋篠宮邸、寛仁親王邸、三笠宮邸、高円宮邸で就任の記帳。四時七分、東京・渋谷の常陸宮邸で就任の記帳。」といったごとく就任挨拶儀礼を展開している。もとより、八月三〇日、野田佳彦も新首相に国会で指名されたあとすぐに、退任する菅首相に先行して議会関係者に同様に挨拶廻りしている。この際には、各院の民主党国対委員長が交代で同行している。

興味あることに、朝日新聞の「首相動静」の宮家回りの表記によると、菅首相の場合は「退任のあいさつ」、野田首相の事例では「就任の記帳」となっている。察するに、退任する首相には皇太子や各宮殿下が直接に応接されたようである。

天皇との関係において首相の退任・就任儀礼が象徴的に完結するのは、それぞれの首相夫妻が御所に招待され両陛下と「夕食」をとにもする共食儀礼（コミュニケーション）であろう。二〇一〇年の首相交代（六月八日）の際には、交代から二カ月が経過した時期、すなわち鳩山由紀夫・前総理夫妻が八月二日（木）、そして菅直人・新総理夫妻が八月一七日（火）に、換言すると八月一五日の戦没者追悼式儀礼の前後に、御所での「夕食」にそれぞれ招かれていた。続いて、七月一日投開票の参議院選挙を受けて召集された臨時国会（七・三〇～八・六）で交代した、新旧の各参議議長・副議長夫妻は八月一日と一九日に共食儀礼を享受している。ちなみに、野田首相夫妻がこの儀礼に浴したのは、政権発足・五週間後（臨時国会終了・一週間後）の二〇月七日（金）である。退任した菅前首相夫妻は、一〇月二五日に御所に招待されている。

（二） 衆参両院議長の挨拶・報告儀礼

宮内庁の提供する「天皇后后陛下のご日程」を参照してみると、両院議長はその就任後に天皇に拝謁、一定の間をおいて夕餐、そして退任後に夕餐などによばれている。それに両院議長は、天皇の国会開会式お出ましに対する返礼として、開会式終了後に皇居に赴いてお礼の記帳、国会閉会の数日後に宮殿で天皇に挨拶（報告）、といった対天皇儀礼を実践している。

そこで、衆議院解散・総選挙（二〇〇九年）と参議院通常選挙（二〇一〇年）のあった両年に焦点をあて、具体的に点検してみよう。なお、開会式に際するお礼記帳などは上記の「ご日程」には記載されていない。

両年の対照表の事例を参照して、国会関係者の天皇との関係儀礼に照準を合わせてみると、二〇〇九年には四月一三日に衆参両院の議院運営委員長などの役員が宮殿において天皇に「拝謁」し「お茶」を供され懇談している。そして、七月二日に衆議院が解散され前職となった衆議院議長と現職の参議院議長は、翌二日に皇居・宮殿に出向いて、慣例どおり「国会終了につき」天皇に対し「挨拶」報告している。八月三〇日投開票の衆議院選挙で民主党が大勝し、特別国会の冒頭（九・一六）で新たに議長・副議長が選出されたが、さっそく新議長・副議長は皇居に赴き天皇に「拝謁」している。鳩山内閣の発足をうけて、九月一八日に天皇を迎えて国会開会式が催されている。かくして、退任につき、麻生太郎・前総理夫妻が九月二四日に、前任の衆議院議長・副議長夫妻が九月三日に御所によばれ、天皇后と「夕餐」を共にしている。新任については、政権交代から四週間弱たった一〇月一二日と一三日に、鳩山総理夫妻と議長・副議長夫妻が同様の共食儀礼を前後して受けている。一二月四日（金）に国会が閉会すると、週明けを待って火曜日（一二・八）に、衆議院議長・参議院議長は皇居に出かけ宮殿で天皇に「挨拶」している。

二〇一〇年においても、国会終了や参院議長・副議長の選出にちなみ同様の儀礼パターンが展開されているが、

儀礼 (2009年&2010年)

日付	曜日	現前等	様式	関係対象・主体等
2010年				
1. 06	(水)	○▽	認証官	検事長等 2名
1. 15	(金)	○▽	認証官	最高裁判事等12名
1. 18	(月)	○国会	開会式	第174回 通常国会開会式
2. 08	(月)	◎*	お茶	新旧警視總監
		○▽	お茶	退職認証官
2. 10	(水)	○▽	認証官	大臣 1名
2. 15	(月)	○▽	お茶	退職認証官
2. 18	(木)	○▽	拝謁	全国検事長及び検事正会同道に出席する検事正等
2. 24	(水)	○▽	認証官	高等裁判所長官等 2名
3. 08	(月)	○▽	認証官	高等裁判所長官 1名
4. 12	(月)	○▽	認証官	最高裁判事等 2名
4. 15	(木)	◎	園遊会	春の園遊会 (赤坂御苑)
4. 19	(月)	○▽	拝謁・お茶	衆参両院の役員等
4. 27	(火)	○▽	内奏	鳩山総理大臣
5. 27	(木)	○▽	拝謁	全国市議会議長会定期総会に出席する市議会議長等
5. 31	(月)	○▽	認証官	検事長 1名
6. 08	(火)	○▽	内奏	衆院議長・参院議長
		○▽	親任式	菅直人首相
		○▽	認証官	大臣等20名
6. 09	(水)	○▽	認証官	副大臣22名
6. 10	(木)	○▽	拝謁	「高裁長官、地裁所長及び家裁所長会同道」に出席する 地裁所長及び家裁所長
6. 11	(金)	○▽	認証官	大臣 1名
6. 17	(木)	○▽	挨拶	衆院議長、参院議長 (6. 16 国会終了につき)
		○▽	認証官	検事総長等 9名
7. 11	(日)	—	—	参院通常選挙 (民主党惨敗)
7. 22	(木)	○▽	内奏	農林水産大臣
7. 23	(金)	○▽	内奏	総務大臣
7. 30	(金)	○▽	拝謁	参院議長・副議長 (新任につき)
		○国会	開会式	第175回 臨時国会開会式
8. 09	(月)	○▽	挨拶	衆院議長、参院議長 (8. 6 国会終了につき)
8. 12	(木)	◎*	夕食	鳩山・前総理夫妻 (退任につき)
8. 17	(火)	◎*	夕食	菅直人総理夫妻 (新任につき)
8. 18	(水)	◎*	夕食	新参院議長・副議長夫妻 (新任につき)
8. 19	(木)	◎*	夕食	前参院議長・前参院副議長夫妻 (退任)
8. 20	(金)	○▽	認証官	大使22名
9. 07	(火)	◎*	昼餐	新旧式部副長 (皇后は前席・後席のみ)
		○▽	拝謁	自衛隊高級幹部会同道に出席する統合幕僚長等

表 12 三権等関係者の関係

日付	曜日	現前等	様式	関係対象・主体等
2009年				
1. 05	(月)	○国会	開会式	第171回 通常国会開会式
1. 16	(金)	○▽	認証官	検事長等 6名
1. 26	(月)	○▽	認証官	最高裁判事等 2名
2. 02	(月)	○▽	お茶	退職認証官
2. 03	(火)	○▽	午餐	会計検査院長(職務代行) 人事院総裁, 公取委委員長等
2. 12	(木)	○▽	お茶	退職認証官
2. 13	(金)	○▽	認証官	大使 7名
2. 19	(木)	○▽	拝謁	全国検事長及び検事正会合同に出席する検事正等
2. 20	(金)	○▽	お話し・午餐	法務大臣始め高検検事長等
3. 02	(月)	◎*	夕食	新旧最高裁長官夫妻
3. 25	(水)	○▽	認証官	高等裁判所長官等 4名
3. 30	(月)	○▽	認証官	副大臣 1名
4. 02	(木)	○▽	認証官	人事官等 2名
4. 08	(水)	◎▽	記者会見	結婚満50年に当たり
4. 10	(金)	◎▽	祝賀	宮中祝賀行事
4. 13	(月)	○▽	拝謁・お茶	衆参両院の役員等
4. 16	(木)	◎	園遊会	春の園遊会(赤坂御苑)
4. 21	(火)	○▽	内奏	麻生総理大臣
5. 13	(水)	○▽	認証官	内閣官房副長官
5. 22	(金)	○▽	認証官	大使 2名
6. 18	(木)	○▽	拝謁	「高裁長官, 地裁所長及び家裁所長会合同」に出席する 地裁所長及び家裁所長
7. 02	(木)	○▽	認証官	大臣 2名
7. 3~7. 7		◎	公式訪問	カナダ及びアメリカ合衆国
7. 22	(水)	○▽	挨拶	前衆院議長, 参院議長 (7. 21 衆院解散・国会終了につき)
8. 05	(水)	◎*	お茶	新旧警察庁長官
8. 06	(木)	○▽	認証官	高等裁判所長官等 3名
8. 30	(日)	—	—	衆議院総選挙(民主党大勝)
9. 07	(月)	○▽	内奏	総務大臣

日付	曜日	現前等	様式	関係対象・主体等
9. 10	(金)	◎*	昼 餐	新旧外務省儀典長夫妻
		○▽	認証官	大使 5 名
9. 17	(金)	○▽	認証官	大臣10名 (管内閣改造)
9. 21	(火)	○▽	認証官	副大臣19名
9. 22	(水)	◎*	夕 餐	新旧外務事務次官夫妻
10. 01	(金)	○国会	開会式	第176回 臨時国会開会式
10. 14	(木)	◎*	昼 餐	新旧外務省総合外交政策局長
10. 20	(水)	☆○▽	祝 賀	皇后誕生日
10. 21	(木)	○▽	拝 謁	全国警察本部長会議に出席する全国警察本部長等
10. 26	(火)	○▽	内 奏	菅直人総理大臣
		○▽	認証官	検事長等 3 名
10. 28	(木)	◎	園遊会	秋の園遊会 (赤坂御苑)
11. 02	(火)	○▽	内 奏	環境大臣
11. 15	(月)	◎*	説 明	参院・衆院事務総長 (議会開設 120 年記念式典に 当たり、歩みについて)
11. 23	(火)	○	大 祭	新嘗祭 (夕の儀、暁の儀)
11. 25	(木)	○▽	午 餐	最高裁長官始め最高裁判事、高裁長官等
		○▽	認証官	大使 1 名
11. 29	(月)	◎国会	臨 席	議会開設120年記念式典
12. 01	(水)	○▽	午 餐	法務大臣・副大臣、検事総長始め
12. 07	(火)	○▽	挨拶	衆院議長、参院議長 (12. 3 国会終了)
12. 13	(月)	○▽	お話・午餐	総務大臣・副大臣、知事始め
12. 15	(水)	◎▽	拝 謁	参議院の永年在職表彰議員
12. 16	(木)	○▽	午 餐	会計検査院長・人事院総裁・公取委委員長等
12. 23	(木)	◎▽	祝 賀	天皇誕生日
12. 24	(金)	○▽	午 餐	内閣総理大臣始め閣僚等
12. 27	(月)	○▽	認証官	検事総長等 6 名

御所*と略す。

次のような差異も見受けられる。すなわち、鳩山由紀夫から菅直人に首相が交代するに際して両院議長が天皇に「内奏」しており、また議会開設二〇〇九年記念式典に両陛下の臨席(一一・二九)を賜ることにちなみ、両院の事務総長が事前に御所へ「説明」に赴いている。さらには一月中旬には、参議院の永年在職表彰議員が両陛下に「拝謁」する儀礼が加味されている。興味あることに、二〇〇九年の衆議院総選挙や二〇一〇年の参議院選挙のあとしばらくして、総務大臣は天皇に「内奏」する機会を設け(与えられ)ている。選挙結果の概要を説明しているものと想定される。

(四) 司法関係者と自治体関係者等の
関係儀礼

日付	曜日	現前等	様式	関係対象・主体等
9. 16	(水)	○▽ ○▽ ○▽	拝 謁 親任式 認証官	衆院議長・副議長（新任につき） 鳩山由起夫首相 大臣等20名
9. 18	(金)	○国会 ○▽	開会式 認証官	第172回 特別国会開会式 副大臣22名
9. 24	(木)	◎*	夕 餐	麻生太郎・前総理夫妻（退任につき）
9. 30	(水)	◎*	夕 餐	衆院議長・副議長夫妻（退任につき）
10. 12	(月)	◎*	夕 餐	鳩山総理夫妻（新任につき）
10. 13	(火)	◎*	夕 餐	衆院議長・副議長夫妻（新任につき）
10. 20	(火)	☆◎▽	祝 賀	皇后誕生日
10. 21	(水)	○▽	拝 謁	全国町村議定会・全国大会参加の町村議会議長等
10. 22	(木)	◎	園遊会	秋の園遊会（赤坂御苑）
10. 26	(月)	○国会	開会式	第173回 臨時国会開会式
10. 27	(火)	○▽	内 奏	鳩山由起夫総理大臣
11. 06	(金)	◎▽	記者会見	天皇御即位20年に当たり 即位20年宮中茶会（総理大臣等/副大臣等）
11. 13	(金)	◎▽	茶 会	新嘗祭（夕の儀、暁の儀）
11. 23	(月)	○	大 祭	最高裁長官始め最高裁判事、高裁長官等
11. 25	(水)	○▽	午 餐	
12. 02	(水)	○▽	午 餐	法務大臣始め高等検察庁検事長等
12. 08	(火)	○▽	挨拶	衆院議長、参院議長（12.4 国会終了）
12. 14	(月)	○▽	午 餐	会計検査院長・人事院総裁・公取委員長等
12. 18	(金)	◎*	夕 餐	新旧式部長官夫妻等
12. 21	(月)	○▽	お話・午餐	総務大臣始め知事等
12. 23	(水)	◎▽	祝 賀	天皇誕生日
12. 24	(木)	○▽	午 餐	内閣総理大臣始め閣僚等
12. 28	(月)	○▽	認証官	最高裁判事3名

備考：① 現前等の欄は、天皇単独○、天皇后◎、皇后単独☆で標記。場所は宮殿▽、
② 様式欄の認証官は任命式。

二月に開催される「全国検事長及び
検事正会同」への出席にちなみ、上京
した検事正などは皇居（宮殿）におい
て天皇に「拝謁」する儀礼慣習がある。
それとパラレルに、六月開催の「高裁
長官、地裁所長及び家裁所長会同」に
出席する地裁所長・家裁所長も、同様
の「拝謁」儀礼を踏襲している。二〇
〇九年の事例では、前者は二月一九日
に行なわれているが、その翌日（金曜
日）には、法務大臣始め高等検察庁検
事長等が皇居に招待され、宮殿で天皇
と「お話」をし「午餐」をともにして
いる。そして、一二月下旬には最高裁
の長官・判事および高裁長官等が、ま
た一二月月上旬には法務大臣始め高等検
察庁検事長等が、それぞれ皇居を訪問
し宮殿で天皇と「午餐」をいただく儀

礼が毎年行なわれている。

他方、自治体関係者の場合、全国町村議長会・全国大会に参加するために上京した町村議会議長などが、また同様の組織・定期総会に出席する市議会議長などが、ときに「拝謁」の機会を享受している。知事クラスのケースでは、毎年・一二月に総務大臣・副大臣とともに知事等が皇居に呼ばれ、天皇との関係儀礼として「お話・午餐」に興じている。

皇居・宮殿で行なわれる天皇臨前での認証式を経て正式にその任に就く、認証官の別のグループ、すなわち、会計検査委員長・人事院総裁・公取委員長等は、一月中旬に宮殿で天皇との「午餐」に臨んでいる。また、二月には、退職認証官は天皇より「お茶」の機会を供され、退任儀礼に臨んでいる。認証官などとの「午餐」儀礼の締めくくりとして、年末には総理大臣と閣僚が招待され、宮殿で天皇と共に食事し懇談している。

他にこの対照表で目に留まる事例は、その交替に際して新旧警察庁長官が（二〇〇九・八・五）、また新旧警視總監が（二〇一〇・二・八）、宮殿ではなく御所に招待されて、両陛下と「お茶」をともにしている。これらは、行幸啓などでの警備儀礼に対する儀礼バランスの回復という意味合いを有しているよう。その交代に際し、御所において、天皇の身近で仕える新旧式部長官は両陛下と「夕餐」を、また新旧外務省儀典長は両陛下と「昼餐」を、いずれも夫妻揃って共にしている。外務事務次官の交代ケースでは、その共食儀礼は官位を反映して「夕餐」となっている。二〇一〇年の事例で、もう一つ特筆すべき宮殿での「拝謁」儀礼として、自衛隊高級幹部合同に出席する統合幕僚長等（九・七）と全国警察本部長会議に出席する全国警察本部長等（一〇・二一）のそれがある。

表 13 皇族の総裁・名誉総裁等の概要（2011年現在）

天皇 昭和天皇：1964.10 東京五輪名誉総裁

皇后 皇后：日本赤十字（名誉総裁）/各妃殿下：☆日本赤十字（名誉副総裁）

皇太子 皇太子：国連「水と衛生に関する諮問委員会」（名誉総裁）/「日独交流150周年」（日本側名誉総裁） ☆日赤名誉副総裁

	医療福祉・国際親善関連	生物・動物関係, その他	スポーツ関連
秋篠宮	○日蘭協会 ○(公財)世界自然保護基金 ジャパン ☆サイアム・ソサエティ	◎(財)山階鳥類研究所 ◎(社)日本動物園水族館協会 ○日本愛瓢会 ◎御寺泉涌寺を護る会 ○日本水大賞委員会	○(財)日本テニス協会
紀子妃	◎(公財)結核予防会 ◎(社福)恩師財団母子愛育会		
常陸宮	◎(社福)日本肢体不自由児協会 ◎日本丁抹（デンマーク）協会 ◎(公財)日本障害者リハビリテーション協会 ◎(公財)日仏会館 ○日本瑞典（スウェーデン）協会 ○日本ベルギー協会 ○(公財)がん研究会 ○日本パズツール協会	◎(財)日本鳥類保護連盟 ◎(社)発明協会 ◎(財)大日本蚕糸会 ◎(公財)日本美術協会 ◎(公財)東京動物園協会 ☆日本赤十字	◎(財)日本バスケットボール協会
華子妃	○(社)日本・ラテンアメリカ婦人協会	○(公社)日本動物福祉協会 ○(社)日本馬術連盟 ○(財)日本いけばな芸術協会	○(社)日本馬術連盟
三笠宮	○日本・トルコ協会	○(財)中近東文化センター ☆日本赤十字	○(公財)日本ワックスマン財団
寛仁親王	◎恩師財団済生会 ◎日本・トルコ協会 ◎(社福)友愛十字会 ◎(社福)ありのまま舎 ◎(公財)高松宮癌研究基金 ○(社)日英協会 ○日本ノルウエー協会	◎(財)中近東文化センター ◎(財)新技術開発財団	◎(社)日本ビリヤード協会 ◎(社)日本職業スキー教師協会 ◎日本学生氷上協議連盟 ○(財)日本ラグビーフットボール協会
信子妃	◎(社)東京慈恵会	○(財)日本ばら会	

	医療福祉・国際親善関連	生物・動物関係, その他	スポーツ関連
桂 宮	◎(社)日・豪・ニュージ ーランド協会	◎(社)大日本農会 ◎(社)大日本山林会 ◎(社)日本工芸会 ◎(社)日本漆工協会	
高円宮妃	○(財)日本スペイン協会 ○日本アジア協会 ○フランス語婦人会 ○日本・エジプト協会 ○日加協会 ○(社)いけばなインター ナショナル ○「高円宮記念日韓交流 基金」	◎(社)日本アマチュアオー ケストラ連盟 ○(公社)日本水難救済会 ○(財)地域伝統芸能活用 センター ○(公財)稲盛財団 ○(社)日本海洋少年団連盟 ○日本学生協会基金 ○バードライフ・インター ナショナル 同上のレアバード・クラ ブ 名誉顧問 (財)国際教育振興会賛助会 名誉会長	◎(公社)日本グラススキ ー協会 ○(財)全日本軟式野球 連盟 ○(公社)全日本アーチェ リー連盟 ○(社)日本フェンシング 協会 ○(社)日本ホッケー協会 ○(財)日本サッカー協会 ○(財)日本セーリング 連盟 ○(公社)日本スカッシュ 協会 ○国際弓道連盟

* 総裁は◎, 名誉総裁は○, 名誉副総裁は☆を付した。

* 宮内庁ホームページを参照し作成

結びに代えて

皇室のソフトパワー性は、天皇・皇太子・宮殿下それぞ
れの現前や儀礼によって構築されているだけでなく、皇后
や妃殿下の各種催しへのお出まし(儀礼的プレゼンス)、
親和的で細やかな接遇、お見舞いし寄り添う共感儀礼、そ
れに深い祈りと和歌表現などによっても担保されている。

ここでは、皇后・皇太子妃・秋篠宮妃が単独で動かれた各
事例を、一部期間に限定・編集した動静年表を資料として
末尾に掲載する。皇后の養蚕情報も繰り入れた。

本稿では、平成の皇室(美智子皇后、雅子皇太子妃)に
対する「バッシング」の問題性には触れなかった。一九九
三年一〇月二〇日、皇后は誕生日に赤坂御所で倒れ、心因
性の失語に見舞われた。前年一〇月に遂行された天皇皇后
の中国訪問に淵源、外交官出身の皇太子妃決定(九三年一
月)を契機に、平成流皇室への批判がいつしか始動し、四
月から一〇月にかけて、とりわけ週刊文春・週刊新潮や雑

誌「宝島」などで、ときにアンフェアな皇后批判が重畳的に展開された。⁽¹⁶⁾ソフトな接触スタイルに傾斜する「新しい皇室」、「心の通い合い」を重んじる（或いはときに踏み込みすぎる）「皇室外交（国際親善）」に対しては、昭和期天皇制の権威重視（関係距離の管理）との対照性において、⁽¹⁷⁾積極的また好意的な期待感の高まりとともに保守的な反動・警戒感など、アンビバレントな反応が惹起された。換言すると、美智子皇后は、言わば平準化した「象徴天皇」カリスマの身代わりとして、批判の標的となり犠牲に供された節がある。

翻ってみるに、こうした陰湿な批判に対する間接的回答（主体的抵抗）は、明仁天皇による「宮中儀式や皇室祭祀の厳修・精勤」（例えば、毎月一日の「旬祭」を天皇が主宰）、一九九五年（戦後五〇周年）に際する「天皇皇后の慰霊の旅」の準備・敢行であったと見立てられる。こうして、平成期象徴天皇制は固有性と普遍性の両面を重視する儀礼戦略によって、その第一次的危機を乗り越えたようである。他方、その後には醸成された、親王未誕などにちなむ、皇太子妃の心身の不調と象徴的な孤絶（公共的離在）は、男系天皇制における継承者の稀少化（二〇〇六年九月、悠仁親王誕生）とあいまって、外見的には平成天皇制に慢性的な危機を齎しているようにみえる。ときに、条件反射的に秋篠宮家（内親王）に好感が寄せられる所以である。⁽¹⁸⁾ともあれ、ソフトパワーに占める女性皇族のプレゼンス、その親和的な魅力や象徴的な表現力の機能・効能はあらためて着目に値する。

本稿を閉じるにあたって、あらためて皇族がどのようなネットワークによって推戴されているか、その縮図的表出として総裁職・名誉総裁職の一覧（表13）を掲載する。

（二〇二一年一月一五日、攔筆）

注

(1) *筆者の主催する日本政治過程論演習で二〇〇八・二〇〇九年度に皇室研究を行なった。本研究は、両年度のゼミ生諸君の資料作成に一部依拠している。ここに、闊達・誠実なゼミ生諸君の助力に感謝の意を表します。

(2) ただし、二〇一一年一月一〇日現在では、皇太子の動静日程は平成一四年(二〇〇二)一月から、秋篠宮のそれは平成一六年七月以降のものが掲載されているだけである。他の宮家の「ご日程」情報はない。

(3) 天皇の日常を詳細に整理し説明している、山本雅人『天皇陛下の全仕事』講談社現代新書(二〇〇九年)を参照のこと。

(4) 天皇皇后・皇太子夫妻・秋篠宮夫妻以外の各宮家の動静については、MSN産経ニュースが毎週土曜日に掲載する「皇室ウィークリー」(第二〇四号は二〇一一年一月五日付)、および産経新聞社の取材協力になる扶桑社の季刊誌『皇室Our Imperial Family』を、第三基本情報として参照したが、逐一の引用注は割愛させて頂く。ちなみに、この季刊誌は、第一四号(平成一四年春)から新装刊としてこの名称を採用、それ以前は『わたしたちの皇室』、創刊号(平成一〇年冬)は御即位一〇年記念特集となっている。

(5) 戦後地方巡幸の意義や展開戦略については、拙著

『象徴天皇制へのパフォーマンス』山川出版社(一九八九年)を参照されたい。

(6) 昭和期の天皇行幸の詳細については、拙稿「昭和期の天皇行幸の変遷―一九二七年―一九六四年を中心として―」(『学習院大学法学部 研究年報二四』一九八九年 所収)を参照されたい。

(7) 昭和天皇の健康期(一九七六―一九八四)と平成の初期(一九八九―一九九七)の各九年間を比較、宮中行幸・公務の増度を調査分析したものととして、岩井克己「平成流とは何か―宮中行幸の定量的・定性的分析の一試み―」『年報・近代日本研究』第二〇号(一九九八年、二二二―二五一頁)を参照のこと。

(8) 拙稿、「補論 町村次元における国民体育大会の象徴構造」『象徴天皇がやって来る』(平凡社、一九八八年、四六―五四頁)を参照のこと。

(9) 例えば、総裁ないし名誉総裁として、秋篠宮は高階鳥類研究所・日本動物園水族館協会・日本テニス協会、紀子妃は結核予防会、常陸宮は日本バスケットボール協会、華子妃は日本動物福祉協会・日本馬術連盟、三笠宮寛仁親王は恩師財団「済生会」・日本職業スキー教師協会・日本学生水上協議連盟・日本ラグビーフットボール協会それに日本トルコ協会、高円宮久子妃は日本水難協会・全日本軟式野球連盟・日本ホッケー協会・日本サッカー協会・日本フエッティング協会ほか。

皇室とスポーツのつながり、スポーツ関連職については、小学館・隔週刊『皇室の二〇世紀・三〇号』「皇室とスポーツ」を参照のこと。

- (10) 一九九五年の慰霊の旅・沖繩訪問への経緯（明仁天皇の思い）、それに諸種の新しい試みの波紋について、岩井克己『天皇家の宿題』朝日新書（二〇〇六年）・第一章「平成流」の奥行きと危うさ」を参照のこと。
- (11) 拙稿「象徴天皇と国民の新たな関係を…戦後五〇年」慰霊の旅をめぐって、『世界』一九九五年一月号所収。

- (12) ちなみに、政府主催の全国戦没者追悼式が始まったのは一九六三年である。

- (13) 皇太子は、二〇〇九年一月一九日に催された、墓苑創建五〇周年・秋季慰霊祭に臨席している。時の外相（岡田克也）も参列している。

- (14) 五月末までの時点（天皇・皇族方、一人によるのべ二七箇所訪問）での、慰問儀礼作戦に焦点を当てた一例として、「美智子さま 皇族総動員にあった魂の電話指令！ 祈りの旅は終わらない…」『女性自身』（六月一四日号、四六～四七頁）を参照のこと。

- (15) 「新年（元旦）祝賀の儀」の展開次第（場所）の解説については、所功『天皇の「まつりごと」象徴としての祭祀と公務』一五八～一六三頁（NHK出版、二〇〇九年）、および、前掲・山本雅人著（二二～二二

八頁）を参照のこと。逐一の引用注は割愛したが、本節の記述はその多くを両者の説明に依拠している。なお、平成二三年一月一日の行事一覧については、宮内庁ホームページを活用した。

- (16) 前掲、岩井克己著（二〇〇六年）、第二章「失われたい声」を参照のこと。

- (17) 「民主」の子と「君主」の父、二人の象徴天皇のあり方を描いた研究として、保阪正康『明仁天皇と裕仁天皇』講談社（二〇〇九年）を参照のこと。

- (18) 特集「岐路に立つ象徴天皇制」『世界』二〇〇九年六月号所収の諸論考（とりわけ、森暢平著、島宇宙を漂流する「象徴」を参照のこと）。

資料1 美智子皇后の単独行啓一覧（2003～2008年）

年月日	お出かけ先	目的	行啓の趣旨・対象など
2003年	(平成15)		
* 1. 18	天皇、東大病院に入院		前立腺がん全摘手術（2.08 退院）
3. 27	桃華楽堂	鑑賞	音楽大学卒業生演奏会
3. 31	松戸市戸定歴史館	ご覧	「現代かな書の最高峰 藤岡保子展」
4. 05	自由学園明日館	覧・臨	婦人之友社建業100周年記念「読者と歩んだ一世紀展」及び講演会
4. 11	原美術館	ご覧	「篠田桃紅 朱よ」展
4. 18	霞会館	臨席	故近衛秀健を偲ぶ会
4. 25	楽 部	臨席	雅楽演奏会
5. 01	紅葉山御養蚕所	養蚕	御養蚕始の儀/5.7 山つけ（天蚕・柞蚕）、5.9 ご給桑（第1回）、5.12 ご給桑（第2回）、5.23 上族、5.30 初繭搔
5. 08	明治神宮会館	臨席	平成15年全国赤十字大会
5. 12	東京国立近代美術館 工芸館	ご覧	「今日の人形芸術—想念（おもい）の造形」展
5. 28	第一生命ホール	鑑賞	アイザック・スターン・メモリアル・チャリティ・コンサート
6. 19	日本赤十字社	臨席	フローレンス・ナイチンゲール記章授与式
6. 27	紅葉山御養蚕所	養蚕	御養蚕納の儀
7. 17	サントリーホール	鑑賞	難民を助ける会主催新垣勉チャリティコンサート
7. 29	横浜美術館	ご覧	生誕100年記念・没後20年「岡田謙三展」（横浜美術館及び岡田夫人からの願い出により）
8. 21	東京都現代美術館	ご覧	「田中一光回顧展 われらデザインの世界」
9. 03	宮 殿	出席	皇族たる皇室会議の議員・予備議員の互選の投票
9. 06	青山劇場	ご覧	第5回日本太鼓全国障害者大会
10. 02	すみだトリフォニーホール	鑑賞	フィンランド・ラハティ交響楽団コンサート シベリウス クレルヴォ交響曲
11. 05	桃華楽堂	臨席	絲竹会例会
11. 18	上野の森美術館	ご覧	「ピカソ・クラシック展1914-1925」
12. 01	東京国立博物館	臨席	国際シンポジウム「国際アンデルセン賞の軌跡」同レセプション（国際子ども図書館）
12. 10	国立西洋美術館	ご覧	「レンブラントとレンブラント派 聖書 神話物語」展
12. 12	東京文化会館	鑑賞	サンクトペテルブルグ建都300周年記念 ロシア芸術祭「巨人ロストロポーヴィチ2大チェロ協奏曲の世界」
2004年	(平成16)		
2. 04	東京芸術大学大学美術館	ご覧	「赤松麟作とその周辺」展
3. 12	ギャラリー川船	ご覧	「水村喜一郎展」
3. 16	サントリーホール	鑑賞	ロンドン交響楽団創設100周年記念公演
3. 22	桃華楽堂	鑑賞	音楽大学卒業生演奏会
3. 24	東京ステーションギャラリー	ご覧	没後30年「香月泰男展—(私の) シベリア、そして(私の) 地球—」
4. 30	紅葉山御養蚕所	養蚕	御養蚕始の儀/5.12、19 ご給桑（定例）、5.21 上族（定例）、5.28 初繭搔（定例）

年月日	お出かけ先	目的	行啓の趣旨・対象など
5. 07	ホテルオークラ	午餐	日本・ラテンアメリカ婦人協会創立30周年記念午餐会
5. 13	明治神宮会館	臨席	平成16年全国赤十字大会
5. 15	立教女学院	鑑賞	滝乃川学園「天使のピアノ」コンサート
5. 18	ニューオータニ美術館	ご覧	堀文子展
5. 22	国際子ども図書館	ご覧	インドの児童文学—展示ご覧、講演会ご臨席
6. 09	楽 部	臨席	絲竹会例会
6. 11	損保ジャパン東郷青児美術館	ご覧	「ピエール・ボナール—彩られた日常」展
6. 25	紅葉山御養蚕所	養蚕	御養蚕納の儀
6. 30	サントリーホール	鑑賞	難民を助ける会主催天満敦子&池田直樹チャリティコンサート
7. 20	北とびあ	鑑賞	ナサニエル・ローゼンチェロリサイタル(清水勝雄追悼リサイタル)
7. 28	京王プラザホテル	臨席	第26回国際女医会議オープニングレセプション
▽10. 20	皇后、古希を迎える		
11. 07	Bunkamura オーチャードホール	出席	小児がん征圧キャンペーン・チャリティコンサート「生きる2004～小児がんなど病気と闘う子供たちとともに」
12. 03	国立西洋美術館	ご覧	「マティス展」
*12. 30	宮内庁、紀宮の婚約内定を発表		
2005年	(平成17)		
2. 21	東京都庁	ご覧	「人道の記録～写真で見る赤十字145年の歴史～」
2. 23	東京オペラシティアンサンホール	鑑賞	難民を助ける会主催インド洋大津波・新潟県中越地震被災者支援のための中村絃子チャリティコンサート
2. 24	東京宝塚劇場	鑑賞	宝塚歌劇組公演گران・ファンタジー「レビュー伝説」—モン・パリー誕生77周年を記念して—
3. 12	霞会館	鑑賞	CWAJ 版画展50周年記念「菊地崇ヴィオラコンサート」
3. 14	桃華楽堂	鑑賞	音楽大学卒業生演奏会
3. 25	三の丸尚蔵館	ご覧	皇后陛下古希記念特別展「皇后陛下のご養蚕と正倉院裂(ぎれ)の復元」
4. 01	サントリーホール	鑑賞	和波孝禮60歳バースデーコンサート
4. 22	国立西洋美術館	ご覧	ジョルジュ・ド・ラ・トゥール展
5. 18	紅葉山御養蚕所	養蚕	御養蚕始の儀/5. 25, 6. 2 ご給桑(定例), 6. 10 上簇(定例), 6. 15 初繭搔(定例)
5. 20	明治神宮会館	臨席	平成17年全国赤十字大会
6. 08	桃華楽堂	臨席	絲竹会例会
6. 15	イイノホール	鑑賞	映画「マザー・テレサ」試写会
6. 21	帝国劇場	鑑賞	東宝ミュージカル特別公演「ラ・マンチャの男」
7. 06	紅葉山御養蚕所	養蚕	御養蚕納の儀
7. 06	東京芸術劇場	鑑賞	日本・メキシコ友好コンサート 黒沼ユリ子と12人の子どもたち

年月日	お出かけ先	目的	行啓の趣旨・対象など
7.08	東京プリンスホテル	臨席	第40回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式
8.27	泉屋博物館	ご覧	特別展「人間国宝 江里佐代子・截金の世界」
9.08	国会図書館国際子ども図書館	ご覧	ロシア児童文学の世界—昔話から現代の作品まで—
9.12	浜離宮朝日ホール	鑑賞	朝日賞受賞記念「秋吉敏子コンサート」
10.08	Bunkamura オーチャードホール	鑑賞	大野和士・ベルギー王立歌劇場来日公演 オペラ「ドン・ジョヴァンニ」
10.13	京王プラザホテル	臨席	国際ゾント26地区（日本・台湾・韓国）第8回地区大会オープニング・レセプション
11.25	日生劇場	鑑賞	NISSAY OPERA 2005 オペラ「夕鶴」
12.05	三の丸尚蔵館	ご覧	第39回展覧会「やまとうた—美のこころ」
12.12	東京都美術館	ご覧	プーシキン美術館展
12.26	板橋区立美術館	ご覧	赤ずきんと名作絵本の原画たち トロースドルフ絵本美術館展
2006年	(平成18)		
1.14	東京オペラシティコンサートホール	鑑賞	NHK 東京児童合唱団第34回定期演奏会
1.24	新国立劇場	鑑賞	オペラ「魔笛」
2.04	紀尾井ホール	鑑賞	ワークショップとコンサート「子どもたちのためのオーケストラ入門」
*2.7	宮内庁、秋篠宮妃の懐妊を発表		
2.15	Bunkamura ザ・ミュージアム	ご覧	「渋谷で会う ポーラ美術館の印象派コレクション展」
3.06	ギャラリーパレス	ご覧	「ペーテルから、愛をこめて」絵画展
3.17	高島屋東京店	ご覧	「小原豊雲生誕百年・創流百一十一年記念 いけばな小原流展」
3.20	世田谷文学館	ご覧	「花森安治と『暮らしの手帳』展」
3.25	旧東京音楽学校奏楽堂	鑑賞	星の王子さまの会レクチャーコンサート
3.29	桃華楽堂	鑑賞	音楽大学卒業生演奏会
4.11	日本橋三越本店	ご覧	旭出学園工芸展
5.01	紅葉山御養蚕所	養蚕	御養蚕始の儀/5.10 ご給桑（定例）、5.15 天蚕山つけご作業（定例）、5.18 ご給桑（定例）、5.24 上族（定例）、5.30 初繭播（定例）
5.03	東京国立近代美術館	ご覧	生誕120年 藤田嗣治展
5.07	サントリーホール	鑑賞	館野泉ピアノ・リサイタル
5.25	明治神宮会館	臨席	平成18年全国赤十字大会
5.26	東京文化会館	鑑賞	黒沼ユリ子&ヨゼフ・オレホフスキ デュオ・コンサート
6.28	紅葉山御養蚕所	養蚕	御養蚕始の儀
7.03	Bunkamura オーチャードホール	出席	小児がん征圧キャンペーン・チャリティコンサート「生きる2006～小児がんなど病気と闘う子供たちとともに」（第2部）
7.05	ブリヂストン美術館	ご覧	石橋美術館開館50周年記念「坂本繁二郎展」
7.21	ヤマハホール	鑑賞	スペシャルオリンピックス日本を支援するチャリティコンサート「小林研一郎のハートフルコンサート」

年月日	お出かけ先	目的	行啓の趣旨・対象など
7. 31	新宿文化センター	鑑賞	ミュージカル「葉っぱのフレディー-いのちの旅-」(第2部)
8. 04	板橋区立美術館	ご覧	2006イタリア・ボローニャ国際絵本原画展
8. 11	日本赤十字社	臨席	殉職救護員慰霊祭、慰霊碑供花、懇談ほか
8. 28~30	草 津	出席	第27回草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル
9. 03	東京オペラシティコンサートホール	鑑賞	難民を助ける会主催 天満敦子チャリティ・ヴァイオリンコンサート(第2部)
9. 16	サントリーホール	鑑賞	サントリーホール20周年記念フェスティバル公演「内田光子ピアノ・リサイタル」
9. 20	平塚市美術館	ご覧	開館15周年記念「世界の絵本がやってきたプラティスラヴァ世界絵本原画展」
9. 27	出光美術館	ご覧	国宝 風神雷神図屏風-宋達・光琳・抱一琳派伝統の継承と創造-
10. 07	横浜国際プール	臨席	第10回ウーマンズ・フェスティバル2006 開会式
10. 09	東京国立近代美術館	ご覧	モダン・パラダイス展
10. 27	新高輪プリンスホテル	ご覧	第9回いけばなインターナショナル世界大会50周年記念「花展」
11. 12	めぐろパーシモンホール	鑑賞	目黒ユネスコ平和コンサート・2006「井上久美子 ハープの世界」
11. 15	国立科学博物館	ご覧	南方熊楠-森羅万象の探求者-
11. 18	紀尾井ホール	鑑賞	滝乃川学園本館修復チャリティー「天使のピアノ」へのいざない〜デュオコンサート〜
11. 30	東京国立博物館	ご覧	特別展「仏像-木にこめられた祈り」
12. 05	楽 部	臨席	絲竹会例会
2007年	(平成19)		
1. 17	国会図書館国際子ども図書館	ご覧	北欧からのおくりもの-子どもの本のあゆみ-
2. 01	表参道・新潟県ネスパス(渋谷区)	ご覧	新潟県文化振興財団25周年特別企画展「諸橋轍次博士と大漢和辞典」
3. 08	高島屋東京店	ご覧	草月創流80周年記念 勅使河原茜展「私の花」
3. 20	桃華楽堂	鑑賞	音楽大学卒業生演奏会
4. 06	目黒区美術館	ご覧	「チョコ絵本とアニメーションの世界」展
5. 02	松屋銀座本店	ご覧	サン=テグジュベリの星の王子さま展
5. 08	明治神宮会館	臨席	平成19年全国赤十字大会
5. 09	紅葉山御養蚕所	養蚕	天蚕山つけご作業(定例), 6. 4 同左/6. 13 御養蚕始の儀/6. 20&6. 29 給桑(定例), 7. 4 上簇(定例), 7. 11 初繭搔(定例)
5. 09	有楽町朝日ホール	鑑賞	映画「眉山〜びざん」試写会
5. 15	九段開館	臨席	日本助産師創立80周年記念レセプション
5. 31	パンフィコ横浜	臨席	日本看護協会レセプション
6. 15	高島屋東京店	ご覧	「画業70年自然と共に生きて 堀文子展」
6. 17	東京国立博物館	ご覧	「レオナルド・ダ・ヴィンチ-天才の実像」
6. 28	森アーツセンターギャラリー	ご覧	ねむの木の子どもたちとまり子美術展〜ねむの木学園創立40周年記念〜
7. 07	国会図書館国際子ども図書館	出席	国際児童図書評議会会長歓迎の夕べ

年月日	お出かけ先	目的	行啓の趣旨・対象など
7.09	東京プリンスホテル	臨席	第41回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式・茶話会
7.10	Bunkamura オーチャードホール	出席	小児がん征圧キャンペーン・チャリティコンサート「生きる2007～小児がんなど病氣と闘う子供たちとともに」(第2部)
7.25	教文館	出席	菱木晃子氏講演会『私にとっての「ニルス」の魅力～「ニルスのふしぎな旅」を訳して～』
7.26	紅葉山御養蚕所	養蚕	御養蚕納の儀
8.28～30	草津	出席	第28回草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティヴァル
9.04	Bunkamura オーチャードホール	鑑賞	チュールリッヒ歌劇場来日公演 歌劇「ばらの騎士」第3幕
9.05	宮殿	出席	皇族たる皇室会議の議員・予備議員の互選
9.17	サントリーホール	鑑賞	アイメイト誕生50周年記念 第25回アイメイトチャリティーコンサート
9.18	森美術館	ご覧	「ル・コルビュジュ展 建築とアート、その創造の軌跡」
10.18	紀尾井ホール	鑑賞	花房晴美デビュー30周年ピアノ・リサイタル
10.19	東京国立博物館	ご覧	「平山郁夫 祈りの旅路」展
10.23	ロイヤルパークホテル	臨席	日本中近東東アフリカ婦人会創立25周年チャリティーバザー
10.26	東映会館	鑑賞	第20回東京国際映画祭特別チャリティー上映会
11.08	昭和女子大学人見記念講堂	鑑賞	ヘルシンキ大学男性合唱団公演
11.16	日本書道美術館	ご覧	秋季特別展「書にみる近現代日本女流展」
12.03	桃華楽堂	臨席	絲竹会例会
12.13	国立市・くにたち郷土文化会館	ご覧	滝乃川学園創立者生誕140周年記念展
12.14	三井記念美術館	ご覧	特別展「美の求道者 安宅英一の眼—安宅コレクション」
2008年	(平成20)		
1.13	上野の森美術館	ご覧	日本和紙ちぎり絵協会「創立15周年記念和紙ちぎり絵『和展』全国選抜秀作展」
2.20	東京文化会館	鑑賞	東京二期会オペラ公演「ワルキューレ」第三幕
*2.25	宮内庁、「陛下に今後、骨粗しょう症の可能性」と発表		
3.26	日本橋本店	ご覧	第22回旭学園工芸(知的障害者のための教育・福祉事業)
3.27	桃華楽堂	鑑賞	音楽大学卒業生演奏会
5.01	吹上西通り(皇居内)	養蚕	天蚕山つけご作業(定例)
5.04	サントリーホール	鑑賞	ウィーン少年合唱団公演
5.07	紅葉山御養蚕所	養蚕	御養蚕始の儀, 5.23 ご給桑(定例), 5.27 ご給桑(糸桑育), 5.30 上簇(定例)
5.08	明治神宮会館	臨席	平成20年全国赤十字大会
6.05	紅葉山御養蚕所	養蚕	初繭掻(定例)

年月日	お出かけ先	目的	行啓の趣旨・対象など
6. 06	東京ミッドタウン	ご覧	三宅一生ディレクションによるアート&デザイン展「XXIc. -21世紀人」
6. 21	日仏会館ホール	出席	JBBY（日本国際児童図書評議会）国際講演会「子どもに本を届けるということー発展途上国の図書館活動を中心にー」
6. 25	紅葉山御養蚕所	養蚕	御養蚕納の儀
7. 15	東京藝術大学大学美術館 Bunkamura オーチャードホール	ご覧 出席	バウハウス・デッサウ展 小児がん征圧キャンペーン・チャリティコンサート「生きる2008～小児がんなど病氣と闘う子供たちとともに」（第2部より）
7. 24	国立新美術館	ご覧	「エミリー・ウングワレー展ーアポリジニが生んだ天才画家ー」
8. 13	国立西洋美術館	ご覧	「コロー 光と追憶の変奏曲」展
8. 19	国立国会図書館国際子ども図書館	ご覧	「チェコへの扉ー子どもの本の世界ー」
8. 28	草津音楽の森セミナーハウスⅡ	参加	ワークショップ（翌日8. 29も参加）
8. 30	草津音楽の森コンサートホール	鑑賞	スチューデントコンサート
9. 21	昭和女子大学人見記念講堂	鑑賞	日本メキシコ友好400年記念「世田谷フィルメキシコ人歌手による日本語上演オペラ『夕鶴』
9. 22	高島屋東京店	ご覧	天龍寺塔頭宝蔵院本堂再建換給完成記念「田村能里子展」
10. 05	文京シビックホール	ご覧	第10回日本太鼓全国障害者大会
10. 08	サントリーホール	鑑賞	「難民を助ける会 おかけさまで30周年記念チャリティコンサート～中村紘子とN響の仲間たち～」(第2部), 御休所で同会の活動報告聴取
10. 11	聖心女子学院 東京文化会館	臨席 鑑賞	聖心女子学院創立100周年記念式典 第6回本間一夫記念日本点字図書館チャリティコンサート「和波孝禧 Violin Recital」(第2部)
10. 18	京王プラザホテル	出席	「浜本勝行さんを偲ぶ会」(日本車椅子バスケットボール連盟名誉会長)
11. 07	損保ジャパン東郷青児美術館	ご覧	展覧会「西洋絵画の父 ジョットとその遺産ージョットからルネサンス初めまでのフィレンツエ絵画ー」
11. 20	紀尾井ホール	鑑賞	「清虚洞一絃琴演奏会ーあらたな歩みから20年ー」(第2部)
11. 25	国際文化会館	臨席	日本サラマンカ大学友の会創立10周年記念「感謝の集い」レセプション
*12. 2	天皇、夜になって不登脈による胸部変調で血圧上昇(3日間、公務休み)		
12. 25	憲政記念館	出席	「相馬雪香先生を追悼し感謝する会」(第2部)
2009年 1. 22	(平成21) TOHO シネマズ 六本木ヒルズ	鑑賞	あけの星会設立55周年・青少年福祉センター設立50周年記念チャリティ映画会(「マンマミーア!」特別試写会)

年月日	お出かけ先	目的	行啓の趣旨・対象など
* 1. 29	宮内庁, 天皇の公務等軽減策を公表		
2. 05	東急百貨店本店	ご覧	「第40回現代女流書100人展」
2. 21	王子ホール (中央区)	鑑賞	「前橋汀子 ベートーヴェン・ヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会」(後半)
3. 24	桃華楽堂	鑑賞	音楽大学卒業生演奏会
* 3. 24	宮内庁, 皇后が左ひざの靭帯の一部を損傷と発表 (御料牧場静養に同行せず)		
* 4. 10	天皇・皇后ご成婚 50 年		

備考：主として宮内庁ホームページの「天皇皇后両陛下のご日程」を参照/絲竹会とは、明治天皇の雅楽保存の意向に沿い、明治22年に有志によって創立された演奏団体/滝乃川学園とは日本最初の知的障害児童福祉施設

資料2 皇太子妃のお出かけ一覧（1999～2008年）

年月日	お出かけ先	目的	行啓の趣旨・対象など
1999年	(平成11年) 1～3月 該当なし		
4.08	ホテルニューオータニ	臨席	商工会議書婦人会創立50周年記念式典
5.06	東京国立近代美術館	ご覧	鏑木清方展
5.17	東京全日空ホテル	臨席	アジア婦人友好会創立30周年記念「アジアの祭典1999」チャリティーバザー
5.20	明治神宮会館	臨席	平成11年全国赤十字大会
6.09	東京国際フォーラム	臨席	更生保護制度施行50周年記念 第36回「全国更生保護婦人会の集い」
6.23	日本赤十字社	臨席	第37回フロレンス・ナイチンゲール記章授与式（皇后陛下は服喪につき、ご名代）
6.26	ホテルオークラ別館		渋谷健司さん・小和田節子さん結婚披露宴
6.28	東京都美術館	ご覧	ワシントンナショナルギャラリー展
7.28	日本橋三越本店	ご覧	藤城清治影絵の世界展
8～12月	該当なし		
2000年	(平成12年) 1～4月 該当なし		
5.10	明治神宮会館	臨席	平成12年全国赤十字大会
6～10月	該当なし		
11.05	日本都市センター会館 ニッショーホール	臨席	ヒューマン・アニマル・ボンド2000 講演会 50周年記念「児童福祉施設文化祭」
2001年	(平成13年) 1～5月 該当なし		
▽5.15	宮内庁、皇太子妃の懐妊を 発表		
6.27	日本赤十字社	臨席	第38回フロレンス・ナイチンゲール記章授与式
▽12.01	愛子内親王が誕生		
2002年	(平成14年) 1, 2月 該当なし		
3.06	京王百貨店新宿店	ご覧	第35回なるほど展
4月	該当なし		
5.04	国立国会図書館子ども 図書館	ご覧	国立国会図書館子ども図書館全面開館記念 内覧会
6.27	国立成育医療センター	臨席	国立成育医療センター開設記念国際シンポジウム
7, 8月	該当なし		
9.15	教文館	ご覧	藤城清治影絵展
11.04	明治神宮会館	臨席	第52回児童福祉施設文化祭
11.20	児童養護施設「福音寮」 (世田谷区)	視察	
2003年	(平成15年) 1.23	ご覧	第20回読売招待関書書展
2～4月	該当なし		
5.08	明治神宮会館	臨席	平成15年度全国赤十字大会
6.19	日本赤十字社	臨席	第39回フロレンスナイチンゲール記章授与式

年月日	お出かけ先	目的	行啓の趣旨・対象など
7.04	女性と仕事の未来館 8～10月該当なし	視察	
11.19	児童養護施設東京都石神井学園	視察	
*12.12	宮内庁、皇太子妃の「静養」発表		
2004年 *5.10	(平成16年) 皇太子、訪欧前の記者会見で、雅子妃の病状に関連し「人格否定」発言		
*7.30	林田東宮大夫、雅子妃が「適応障害」との診断を受けたと発表		
11.29	御所	挨拶	江頭寿々子逝去に伴う第一期服喪明けにつき、両陛下に挨拶
2005年 6.27	(平成17年) 御所	見送り	両陛下アメリカ合衆国北マリアナ諸島サイパン島訪問につき
6.28	御所	出迎え	ご帰国につきお出迎え
10.15	キャピトル東急ホテル	聴講	GEA 国際会議開会式の特別講演
10.20	宮殿	祝賀	皇后誕生日につき祝賀
11.06	明治神宮会館	臨席	第55回「児童福祉施設文化祭」
2006年	(平成18年)		
3.03	1月、2月該当なし 学習院幼稚園	出席	A：学習院幼稚園ひなまつり
3.23	聖路加国際病院小児総合医療センター	視察	
10.04	4月～9月 該当なし 御所	挨拶	江頭豊殿逝去に伴う第一期服喪明けにつき、両陛下に挨拶
10.14	学習院初等科		A：学習院初等科運動会
10.18	埼玉県		A：学習院幼稚園遠足
11.17	東京都多摩動物公園 12月該当なし		A：学習院幼稚園園外保育
2007年	(平成19年)		
5.15	1～4月、該当なし 新宿御苑	見舞い	A：学習院幼稚園遠足
6.06	東京大学医学部附属病院	同	皇太子手術のお見舞い
6.09	東京大学医学部附属病院		A：お見舞い
6.14	明治神宮		A：学習院幼稚園園外保育
10.13	7～9月、該当なし 学習院初等科		A：学習院初等科運動会
	11月、12月 該当なし		
2008年	(平成20年)		
3.06	1月、2月該当なし こどもの国（神奈川県）	遠足	A：学習院幼稚園年長組おわかれ遠足

年月日	お出かけ先	目的	行啓の趣旨・対象など
5.19	都立葛西臨海公園	遠足	A：学習院幼稚園遠足
10.12	6～9月，該当なし 学習院初等科 11～12月，該当なし		A：学習院初等科運動会
2009年 3.03	(平成21年) 京王百貨店新宿店	ご覧	「第42回ちょっとしたアイデアなるほど展」 (*取材を前提とした単独公務は06年3月23日以来，3年ぶり！)

以下省略

備考：皇太子妃の動静（2003.1～）は宮内庁ホームページを参照，それ以前は『皇室』（季刊 扶桑社）を参照。/*愛子内親王（A）を同伴したケースではそのイニシャルを冒頭に付した。

資料3 秋篠宮紀子妃の単独行啓一覧（2003～2008年）

年月日	お出かけ先等	目的	行啓の趣旨・対象など
2003年	(平成15年)		
2. 17	国際協力事業団国際協力総合研修所	臨席	結核予防会結核国際研修40周年記念式典およびシンポジウム
3. 05	京王新宿百貨店新宿店	ご覧	第36回ちょっとしたアイデアなるほど展ご覧
3. 06	ガボン大使公邸	臨席	駐日アフリカ大使夫人の会（AWAAJ）主催年次晩餐会
3. 25～26	宮城県	臨席	宮城県ご訪問・第54回結核予防全国大会
4. 25	楽部	鑑賞	平成15年度春季雅楽演奏会
5. 08	明治神宮会館	臨席	平成15年度全国赤十字大会
5. 29	ホテルメトロポリタンエドモント	臨席	第50回産経児童出版文化賞贈呈式、祝賀レセプション
6. 12～13	山形県	臨席	山形県ご訪問・平成15年度山形県赤十字大会
6. 19	日本赤十字社	臨席	第39回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式および茶会
7. 10	リーガロイヤルホテル東京	臨席	結核予防会 資金寄付者感謝状贈呈式
8. 30	有楽町朝日ホール	臨席	第20回全国高校生手話スピーチコンテスト
9. 06	国立劇場	ご覧	「若樹会」公演会
9. 18	福岡県	臨席	福岡県ご訪問 第14回福岡アジア文化省授賞式」ご臨席、特別演奏会ご鑑賞
10. 17	有楽町朝日ホール	ご覧	映画アイラブピース完成披露試写会
10. 27	ホテルニューオータニ	臨席	結核予防会平成15年度胸部検診車（けいりん号）完成伝達式
12. 09	東京都美術館	ご覧	創立250周年記念「大英博物館の至宝展
12. 11	東京駅丸の内北口ホール	臨席	「難民の子どもたちに光を」募金キャンペーン「愛の木」点灯式
2004年	(平成16年)		
1. 23	東京ドーム	臨席	「東京国際キルトフェスティバル」
2. 06	駐日オマーン大使公邸	昼食会	駐日アラブ大使夫人の会（昼食会）
2. 12	東急百貨店本店	ご覧	第35回現代女流書100人展・新進作家展
2. 18	メルバルク東京	臨席	第8回結核予防婦人団体中央講習会開校式
2. 27	京王百貨店新宿店	ご覧	第37回なるほど展
3. 09	サントリー美術館	ご覧	「歌を聞く、絵を詠む、和歌と日本美術」
3. 15～16	福井県	臨席	第55回結核予防全国大会
5. 13	明治神宮会館	臨席	平成16年度全国赤十字大会
5. 21	草月会館	鑑賞	第8回日本太鼓チャリティコンサートご鑑賞
5. 27	ホテルメトロポリタンエドモント	臨席	「第51回産経児童出版文化賞」贈呈式・祝賀レセプション
6. 14	リーガロイヤルホテル東京	臨席	結核予防会 平成16年度資金寄付者感謝状贈呈式
8. 28	有楽町朝日ホール	臨席	第21回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト開会式、同コンテスト、特別プログラムご覧
9. 22	ホテルオークラ神戸（兵庫県）	臨席	兵庫県訪問・平成16年兵庫県赤十字大会ご臨席・視察

年月日	お出かけ先	目的	行啓の趣旨・対象など
9. 28	ホテルニューオータニ	臨席	結核予防大会平成16年度胸部検診車「けいりん号」完成伝達式ならびに 同 結核対策推進優良市町村表彰式・午餐会ご臨席
9. 28	青山劇場	鑑賞	ブロードウェイミュージカル「ビッグリバー」ハックルベリー・フィンの冒険
10. 14	山脇ギャラリー	臨席	日蘭協会創立50周年記念行事「デ・リーフデ会作品展」開会式およびレセプション
12. 07	東京駅丸の内北口ホール	臨席	第16回「難民の子どもたちに光を」募金キャンペーン「愛の木」の点灯式
2005年	(平成17年)		
1. 25	パレスホテル	出席	国際福祉協会恒例昼食会
1. 27	東京ドーム	臨席	東京国際キルトフェスティバル～布と針と糸の祭典2005～開会式、内覧会ご覧
2. 25	都 庁	ご覧	「人道の記録～写真で見る赤十字145年の歴史～」展
3. 04	京王百貨店新宿店	ご覧	第38回ちょっとしたアイデアなるほど展
3. 13	国立劇場	ご覧	M：第100回民俗芸能公演 新潟県中越地震復興支援「佐渡の芸能―伝統を受け継ぐ子供たち―」
3. 14	桃華楽堂	鑑賞	音楽大学卒業生演奏会
4. 22	楽 部	鑑賞	雅楽演奏会
4. 26～27	千葉県	臨席	第56回結核予防全国大会
5. 14	東京国際空港	お迎え	天皇后ノルウェー訪問から帰国につき
5. 20	明治神宮会館	臨席	平成17年全国赤十字大会
5. 24	東京国立博物館	ご覧	世界遺産・博物館島「ベルリンの至宝展―よみがえる美の聖域―」
6. 1～2	愛知県	臨席	平成17年愛知県赤十字大会ご臨席、2005年日本国際博覧会ご視察（愛知県）
6. 07	ホテルメトロポリタン エドモント	臨席	「第52回産経児童出版文化賞」贈賞式、祝賀会
6. 08	桃華楽堂	臨席	絲竹會例会
6. 17	東京国立近代美術館	ご覧	近代日本画の名匠「小林古徑展」
6. 30	リーガロイヤルホテル 東京	臨席	結核予防会平成17年度資金寄付者感謝状贈呈式・お茶会
7. 08	東京プリンスホテル	臨席	第40回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式及び茶話会
8. 28	有楽町朝日ホール	臨席	第22回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト開会式同スピーチコンテスト、特別プログラムご覧
9. 28	ホテルニューオータニ	臨席	結核予防会平成17年度胸部検診車「けいりん号」完成伝達式ご臨席 同 結核対策推進優良市町村表彰式・午餐会
10. 13	東京アメリカンクラブ	ご覧	CWAJ 50周年現代版画展「表紙を飾った版画」
10. 20	東京アメリカンクラブ	臨席	第50回 CWAJ 現代版画展オープニングセレモニーご臨席、「50周年記念版画展」「版画賛歌：50周年回顧展」ご覧、関係者とのご懇談
11. 05	広尾ホール	聴講	赤十字シンポジウム 2005 「つないでいく支援―スマトラ沖地震・インド洋津波被災地の今とこれから」

年月日	お出かけ先	目的	行啓の趣旨・対象など
11. 13	国立オリンピック記念 青少年総合センター	聴講	M：少年の主張全国大会～わたしの主張 2005～（聴講，懇談）
11. 25	国立歴史民俗博物館	ご覧	人間文化研究機構連携展示「うたのちから ～和歌の時代史～」
12. 07	東京駅丸の内北口	臨席	第17回「難民の子供たちに光を」募金キ ャンペーンにおける「愛の木」点灯式
2006年	(平成18年)		
1. 20	東京ドーム	臨席	「東京国際キルトフェスティバル～布と針と 糸の祭典2006～」開会式，内覧会ご覧
1. 27	東京藝術大学大学美術館	ご覧	写真・映像展「世界遺産からのSOS～ア ジア危機遺産からのメッセージ～」
▽2. 07	宮内庁，秋篠宮妃の懐妊 を発表		
2. 08	メルパルク東京	臨席	第10回結核予防婦人団体中央講習会開講式， 複十字シール展示等ご覧
*3. 21	秋篠宮夫妻，皇太子メキ シコ訪問より帰国につき お出迎え（東宮御所）		
5. 17	リーガルロイヤルホテル 東京	臨席	結核予防会平成18年度資金寄付者感謝状 贈呈式，お茶会
5. 21	ホテルJALシティ田町	臨席	国際ろうスポーツ委員会アモンズ委員長講演 会～第16回デフリンピック冬季大会に向け て～
5. 25	明治神宮会館	臨席	平成18年全国赤十字大会
6. 06	ホテルメトロポリタン エドモント	臨席	「第53回産経児童出版文化賞」贈賞式，受賞 者との懇談
6. 08	御所	見送り	天皇后シンガポール，タイご訪問につき
6. 15	御所	出迎え	天皇后シンガポール，タイ訪問から帰国に つき
7. 27	宮内庁病院	検診	
*8. 01	御着帯		
▽9. 06	悠仁親王を出産（男子皇 族の誕生は41年ぶり） （愛育病院）		
11. 12	国立オリンピック記念 青少年総合センター	聴講	M：第28回少年の主張全国大会～わたしの 主張2006～（聴講，懇談）
*11. 14	秋篠宮夫妻，悠仁親王 賢所皇霊殿神殿に謁する の儀（賢所仮殿），両陛 下に挨拶		
12. 04	丸の内OAZOビル	臨席	第18回「難民の子どもたちに光を」募金キ ャンペーンにおける「愛の木」の点灯式
12. 08	第一生命ホール	鑑賞	「韓国国立国楽管弦楽団来日公演」
2007年	(平成19年)		
1. 19	東京ドーム	臨席	「東京国際キルトフェスティバル～布と針と 糸の祭典2007～」開会式，内覧会
2. 14	メルパルク東京	臨席	第11回結核予防関係婦人団体中央講習会 開講式

年月日	お出かけ先	目的	行啓の趣旨・対象など
2. 15	桃華楽堂	鑑賞	楽部洋楽演奏会
2. 23	東宮御所	祝賀	皇太子誕生日につき祝賀
3. 18	学習院初等科 御 所	臨席 挨拶	佳子内親王 学習院初等科卒業式 K：同卒業につき天皇皇后に挨拶
3. 20	桃華楽堂	鑑賞	音楽大学卒業生演奏会
3. 21	賢所仮殿	祭祀	春季皇霊祭・春季神殿祭の儀
3. 22	学習院女子中等科	臨席	眞子内親王 学習院女子中等科卒業式 * 眞子内親王, 同卒業につき両陛下に挨拶 (御所)
3. 28	岡山県	臨席	第58回結核予防全国大会
4. 06	学習院女子高等科・中等科	臨席	眞子内親王 学習院女子高等科入学式/ 佳子内親王 同中等科入学式 * 両内親王, 入学につき両陛下に挨拶 (御所)
5. 08	明治神宮会館	臨席	平成19年全国赤十字大会
5. 15	九段会館	臨席	日本助産師会創立80周年記念式典
5. 16	リーガロイヤルホテル 東京	臨席	結核予防会平成19年度資金寄付者感謝状 贈呈式, お茶会
5. 31	ホテルメトロポリタン エドモント	臨席	「第54回産経児童出版文化賞」贈賞式, 祝賀会
6. 16	沖縄コンベンションセン ター	* 臨席	秋篠宮と合流して夫妻で「アジア学術会議・ 太平洋学術協会合同シンポジウム」
6. 18	帝国ホテル	臨席	第20回ドン ベリニヨン セーブ・ザ・チルド レン・チャリティ・ガラ
7. 09	東京プリンスホテル	臨席	第41回フローレンス・ナイチンゲール記章 授与式, 茶話会
7. 15	スペース FS 汐留	鑑賞	M：映画「ブラインドサイト～小さな登山者 たち～」試写会
8. 06	明治記念館	臨席	「日本学術振興会 特別研究員-RPD 研究 発表会, 懇談会
8. 16	賢所仮殿	式年祭	堀河天皇九百年式年祭の儀
8. 25	有楽町朝日ホール	臨席	第24回全国高校生の手話によるスピーチ コンテスト開会式
9. 06	御 所	挨拶	H：悠仁親王お誕生日につき両陛下へ挨拶
9. 14	ホテルニューオータニ	臨席	全国結核予防婦人団体連絡協議会創立30周年 記念大会
9. 23	時事通信ホール	ご覧	喜如嘉の芭蕉布 平良敏子展 一喜如嘉に生か され芭蕉布に生きる一
10. 02	品川区立総合区民会館	臨席	日タイ修好120周年記念行事「タイ・シル ク・ファッションショー “魅惑的なタイ・シ ルク”」
10. 12	愛知県	臨席	日本赤十字社愛知県支部創立120周年記念 大会
10. 21	松坂屋上野店	ご覧	M：東京芸術大学創立120周年記念「日本絵 画の謎を解く」展
10. 29	国立オリンピック記念 青少年総合センター	臨席	日本・ASEAN ユースリーダーズサミット オープニング文化交流プログラム, 活動紹介 パネル展示ご覧, 参加青年と懇談
11. 11	国立オリンピック記念 青少年総合センター	聴講	K：第29回少年の主張全国大会～わたしの 主張2007～ (聴講, 懇談)

年月日	お出かけ先	目的	行啓の趣旨・対象など
12.03	憲政記念館	臨席	「第30回聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」開会式、児童生徒等の発表ご聴講 第19回「難民の子どもたちに光を」募金キャンペーン「愛の木」の点灯式、活動パネル展示ご覧
12.04	丸の内 OAZO ビル	臨席	
2008年 2.06	(平成20年) メルパルク東京	臨席	第12回結核予防関係婦人団体中央講習会 開講式
2.13	お茶の水女子大学	臨席	「女性研究者支援モデル育成事業等合同シンポジウム～女性研究者等の活躍促進のために～」
3.04	京王百貨店新宿店	ご覧	第41回ちょっとしたアイデアなるほど展
3.25～26	新潟県	臨席	第59回結核予防全国大会
3.27	桃華楽堂	鑑賞	音楽大学卒業生演奏会
5.08	明治記念会館	臨席	平成20年全国赤十字大会
5.14	リーガロイヤルホテル 東京	臨席	結核予防会資金寄付者感謝状贈呈式、お茶会
5.17	帝国ホテル	臨席	第21回ドン ペリニオン セーブ・ザ・チルドレン・チャリティ・ガラ
5.27	梅若能楽院会館	臨席	日蘭協会デ・リーフデ会 10周年記念式典
6.02	ホテルメトロポリタン エドモント	臨席	「第55回産経児童出版文化賞」贈賞式、 祝賀会
6.27	東宮御所	出迎え	皇太子ブラジルより帰国につきお出迎え
7.14	明治記念館	臨席	日本学術振興会「平成20年度特別研究員－RPD 懇談会～出産・育児による研究中断から復帰する研究者の集い～」
7.16	東宮御所	見送り	皇太子スペイン訪問につきお見送り
7.17	栃木県昭和会館	臨席	第44回献血運動推進全国大会
7.24	国際連合大学	臨席	「国際結核シンポジウム（世界における結核の征圧に向けて：アジアからアフリカまで）」 開会式ご臨席、基調講演などを聴取、レセプションご臨席
7.25	国際連合大学	臨席	同 パネルディスカッション、総括セッション
7.25	国際連合大学	臨席	結核国際研修45周年記念祝賀会
8.19	丸の内 TOEI	臨席	M：映画「三本木農業高校馬術部～盲目の馬と少女の実話～」試写会
8.26	セルリアンタワー能楽堂	鑑賞	日本・チェコ2カ国語による「なごみ狂言会 チェコ」東京公演
8.30	有楽町朝日ホール	臨席	M：第25回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト開会式ご臨席、同ご覧
9.09	御 所	挨拶	H：悠仁親王誕生日（9.6）につき両陛下に挨拶
9.11	御 所	挨拶	紀子妃、誕生日につき両陛下に挨拶
10.10	明治記念館	出席	平成20年度東京都赤十字大会 東京都日赤 紺綬有功会午餐会に出席
		臨席	同 大会式典に臨席
10.14	在京アメリカ大使公邸	臨席	日米婦人クラブ2008秋季例会

年月日	お出かけ先	目的	行啓の趣旨・対象など
10. 15	自由学園明日館・豊島区	ご覧	アイスランド児童作家ノンニ・スウェンソン 訪日70周年記念「ノンニの70年後の再訪日」 展示会
10. 20	御 所	祝賀	MKH：皇后誕生日につき祝賀（3人のこどもを同伴）
10. 25	国立オリンピック記念 青少年総合センター	臨席	第38回全国ろうあ婦人集会開会式
10. 26	高島屋東京店	ご覧	MKH：「皇后さまと子どもたち」写真展
10. 27	国立オリンピック記念 青少年総合センター	臨席	展示視察（「東南アジア青年の船」事業参加 国ブース）/臨席（日本・ASEAN ユースリ ーダーズサミット オープニング）、ご覧（文 化交流プログラム）、参加、青年との懇談
11. 06	シェラトン・グランデ・ トーキョーベイ・ホテル	臨席	「第49回日本母性衛生学会学術集会」メイン シンポジウムに臨席、懇談
11. 08	国連大学ウ・タント国際 会議場	臨席	「第6回母子手帳国際会議～世界に届く、い のちのメッセージ～」特別講演・招請講演お よびパネルディスカッションに臨席、懇談
11. 09	国立オリンピック記念 青少年総合センター	聴講	K：平成20年度少年の主張全国大会～わたし の主張 2008～、歓談
11. 22	自由学園・東久留米市	鑑賞	第29回自由学園美術工芸展
11. 27	静岡市	臨席	日本赤十字社静岡県支部創立120周年記念 赤十字大会
12. 02	丸の内 OAZO ビル	臨席	第20回「難民の子供たちに光を」募金キャン ペーン「愛の木」の点灯式
12. 08	憲政記念館	臨席	第31回「聴覚障害児を育てたお母さんをたた える会」開会式、児童生徒の発表ご聴講、受 賞者との懇談

備考：秋篠宮妃の動静（2004.7～）は宮内庁ホームページを参照、それ以前は『皇室』（季刊、扶桑社）を参照して編集した。

* 同伴のケースでは、眞子内親王（M）、佳子内親王（K）、悠仁親王（H）と略記した。

Ritual Structures of the Symbolic Emperor System

SAKAMOTO Kojiro

Key words: Symbolic Emperor, Royal Visits, Communion, Comfort Ritual, Audience

行幸啓 共食儀礼 慰問儀礼 拝謁 ソフトパワー

To conduct research on the ritual and social performances of the Symbolic Emperor System, I am focusing on patterns of the Emperor's visits from the Imperial Palace and styles of receiving at the Palace. It's very important to trace when and where the Emperor visits in Japan, and what ceremonies he attends, accompanying the Empress or not, and what kinds of people, in which style, the Emperor gives audience to, at the Royal Palace, checking whether he has tea, dinner or lunch with them. As for the former theme, I present annual data on the Emperor's visits and then bring into focus royal attendances at the remembrance ceremonies for the war dead and royal comfort visits to the victims due to big earthquakes. Concerning with the latter point, I will focus my attention on those cases in which the administrative, legislative and judiciary executives are received in audience at the Palace, looking into whether they are given the chance of having lunch or dinner with the Emperor (and the Empress).

Ritual structures and various networks which support the soft power of the Symbolic Emperor System will be revealed.